

目次

I. 専攻科の概要

- (1) 教育目的 1
- (2) 専攻科の沿革 1
- (3) 入学資格 1
- (4) 専攻科の教育方針 1
- (5) 教育課程の編成方針 1
- (6) 専攻科の教育課程 2、3、4、5
- (7) 専攻科の教育課程
 - ① 洋画系 6
 - ② 日本画系 7
 - ③ デザイン系 8
 - ④ 陶芸系 9
 - ⑤ 染織系 10
 - ⑥ クラフト(工芸)デザイン系 11

II. 専攻科の授業科目概要

A 群・B 群科目

■専攻理論 1回生

科目名	担当者	ページ
日本美術史	宮嶋幸子	13
西洋美術史	高藤大樹	14
美術教養特論 I	高藤大樹	16
美学・美術史(I)		
美術教養特論 I	高藤大樹	17
美学・美術史(II)		

2回生

科目名	担当者	ページ
美学・芸術学	石黒義昭	15
美術教養特論 II	ト部行弘	18
考古学概論(I)		
美術教養特論 II	ト部行弘	19
考古学概論(II)		
美術教養特論 II 芸術学	村上真樹	20

C 群科目

■専攻演習・専攻実習 1回生

科目名	担当者	ページ
専攻演習 I (洋画制作 I)	平田泰延	21
専攻演習 I (日本画描写 I・II)	小笠美華	22
専攻演習 I (立体造形演習 I)	石股昭賢	23
専攻実習 I (洋画制作 III)	片野ま	24
専攻実習 I (日本画制作 II・III)	辻野宗一	25
専攻実習 I (立体造形実習 I)	広岡真彩彦	26
専攻実習 II (洋画制作 IX)	今西賢	27
専攻実習 II (日本画制作 VII)	小笠美華	28
専攻実習 II (立体造形実習 II)	岡部隆志	29

2回生

科目名	担当者	ページ
専攻演習 II (油彩制作 I)	平田泰延	30
専攻演習 II (日本画描写 IV・V)	小笠美華	31
専攻演習 II (立体造形演習 II)	石股昭賢	32
専攻演習 III (油彩制作 VII・VIII)	吉岡佐知	33
専攻演習 III (日本画描写 VII・VIII)	今西賢	34
専攻演習 III (立体造形演習 III)	小笠美華	35
専攻実習 III (油彩制作 III)	石股昭賢	36
専攻実習 III (日本画制作 VIII・IX)	片野ま	37
専攻実習 III (立体造形実習 III)	辻野宗一	38
専攻実習 IV (油彩制作 IX)	広岡真彩彦	39
専攻実習 IV	今西賢	40
(日本画制作 XII・XIII)	小笠美華	41
専攻実習 IV (立体造形実習 IV)	吉岡佐知	42
	辻野宗一	43
	北浦雄大	44

D 群科目

■実技演習・実技実習 1回生

科目名	担当者	ページ
実技演習 I	洋画 平田泰延	42
	日本画 福井悠	
	デザイン 西岡幸二	43
	陶芸 惣田司音	
	染織 門田綾	
	クラフト 和田誠	
実技演習 II	洋画 廣田美乃	44
	日本画 松浦直子	
	デザイン 西岡幸二	45
	陶芸 惣田司音	
	染織 新田恭子	
	クラフト 藤本奈穂	
実技演習 III	洋画 廣田美乃	46
	日本画 松浦直子	
	デザイン 村松佳優	47
	陶芸 清水篤	
	染織 近藤卓浪	
	クラフト 岡本綾子	
実技演習 IV	洋画 小笠美華	48
	デザイン 北石真紀	49
	陶芸 近藤卓浪	
	染織 北直人	
	クラフト 北直人	
実技実習 I	洋画 片野ま	50
	日本画 辻野宗一	
	デザイン 関根祐司	51
	陶芸 大塩正	
	染織 伊藤藍	
	クラフト 岡本綾子	
実技実習 II	洋画 小笠美華	52
	日本画 岡部隆志	
	デザイン ブラッキー中島	53
	陶芸 清水篤	
	染織 酒井沙織	
	クラフト 小西佳子	
実技実習 III	洋画 西村涼	54
	日本画 広岡真彩彦	
	デザイン ブラッキー中島	55
	陶芸 松本康代	
	染織 伊藤藍	
	クラフト 濱久仁子	
実技実習 IV	洋画 小笠美華	56
	日本画 石股昭賢	
	デザイン ブラサトンダンカン	57
	陶芸 松本康代	
	染織 門田綾	
	クラフト 藤本奈穂	

目 次

D 群 科 目

■実技演習・実技実習

2回生

実技演習	科 目 名	担 当 者	ペー ジ
実技演習V	洋画	平 田 泰 延	58
	日本画	石 股 昭	
	デザイン	西 岡 幸 二	
	陶芸	西 惣 田 司	
	染織	門 田 綾 音	
実技演習VI	クラフト	岡 本 綾 子	60
	洋画	小 笠 美 華	
	日本画	福 井 悠	
	デザイン	ブラサトン タンカン	
	陶芸	大 塩 正 浪	
実技演習VII	染織	近 藤 卓 子	61
	クラフト	岡 本 綾 子	
	洋画	廣 岡 美 乃	
	日本画	岡 部 隆 志	
	デザイン	西 岡 幸 二	
実技演習VIII	陶芸	清 水 篤	63
	染織	伊 藤 藍	
	クラフト	藤 本 奈 穂 子	
	洋画	片 野 ま ん	
	日本画	辻 野 宗 一	
実技実習V	デザイン	関 根 祐 司	64
	陶芸	大 塩 正	
	染織	酒 井 沙 織	
	クラフト	岡 本 綾 子	
	洋画	小 笠 美 華	
実技実習VI	日本画	辻 野 宗 一	66
	デザイン	ブラッキー 中 島	
	陶芸	大 塩 正	
	染織	伊 藤 藍	
	クラフト	藤 本 奈 穂 子	
実技実習VII	洋画	廣 田 美 乃	68
	日本画	吉 岡 佐 知	
	デザイン	村 松 佳 優	
	陶芸	松 本 康 代	
	染織	酒 井 沙 織	
実技実習VIII	クラフト	小 西 佳 子	70
	洋画	西 村 涼	
	デザイン	ブラッキー 中 島	
	陶芸	松 本 康 代	
	染織	門 田 綾 音	
実技実習IX	クラフト	濱 久 仁 子	71

E 群 科 目

■実技演習

1回生

実技演習	科 目 名	担 当 者	ペー ジ	
進級制作	(洋画)	小 笠 美 華	72	
進級制作	(日本画)	石 股 昭	73	
進級制作	(立体造形)	今 西 賢	74	
2回生	修了制作	(洋画)	小 笠 美 華	75
	修了制作	(日本画)	石 股 昭	76
	修了制作	(立体造形)	今 西 賢	77

I. 専攻科の概要

(1) 教育目的

短期大学卒業者に対して、精深な程度において造形美術に関する事項を教授し、その研究を指導して、造形美術の専門家や作家としての能力を最大限に発揮できる人材を育成することを目的とする。

(2) 専攻科の沿革

昭和 58 年 4 月 1 日 専攻科美術専攻設置（1 年制・入学定員 10 人）

平成 6 年 4 月 1 日 専攻科美術専攻設置（2 年制・入学定員 20 人・1 年制廃止）

平成 8 年 4 月 1 日 学位授与機構認定

平成 27 年 4 月 1 日 教育課程改善・学則変更

(3) 入学資格

本学の専攻科に入学することのできる者は、次の各号の 1 に該当する者で、造形美術を専攻する資質があるものとする。

- 1 短期大学を卒業した者
- 2 外国において、学校教育における 14 年（または 15 年）の課程を修了した者
- 3 その他、本学において短期大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(4) 専攻科の教育方針

短期大学 2 年間の一般教養と、美術に関する専門的な知識や技術の基盤の上に、さらに精深で中身の充実した「ほんもの」の造形美術に関する特別の事項を教授し、その研究を指導する。

教育指導においては、特に主体的・意欲的に自己のテーマに取り組んで思考し、行動し、研究し、制作して、自己の可能性を十分発揮するように努める。また、多彩な造形活動を通して芸術の今日的な課題である人間存在にかかわる深いものを追求し、自ら生きる喜びを体験して、独創的な発想と豊かな感性を養う。

(5) 教育課程の編成方針

- ① 短期大学 2 年間の一般教養と造形美術に関する専門的教養を基盤として、より精深な造形美術に関する知識と、高度な技術や幅広い専門教育を修得するための教育課程を編成する。
- ② 専門教育については次の 5 群の科目を開設する。
 - A 群 美術史に関する科目
 - B 群 美術教養特論に関する科目
 - C 群 専攻演習・専攻実習に関する科目（学位取得希望者は必修）
 - D 群 実技演習・実技実習に関する科目
 - E 群 進級・修了に関する科目
- ③ 日本文化発祥の地である当地は、日本文化を学ぶ者にとって極めて重要な土地である。したがって、「美術史」や「美術教養特論」等の科目内容において、日本美術史・西洋美術史等の学習と併せて大和の文化研究及び大和の古代美術史を深く研究する。
- ④ 専攻演習及び専攻実習に関する科目の学習内容は、絵画（洋画・日本画）と立体造形の部門とする。なお、学位取得希望者はこれを必修とする。
- ⑤ 実技演習及び実技実習に関する科目の学習内容は、専攻演習・専攻実習の学習内容以外の内容・分野の科目とし、今日的な美術素養の深化・充実を図るものとする。
- ⑥ 国際交流教育に取り組むとともに、国内における美術関係展覧会の見学や出展、学外連携事業などを積極的に実施して、専攻科の教育の充実を図る。

※本専攻科を修了した者で、所定の単位を修得した者は、学位授与機構が行う学士の学位授与を申請できる。

(6) 専攻科の教育課程

群	科目	年次等		計	一般専攻生	学位専攻生 (学位取得要件)		備考
		I	II					
A	日本美術史	4		4	12単位 修得	12単位 修得		
	西洋美術史 美学・芸術学	4	4	4				
B	美術教養特論 I ・美学美術史 I ・美学美術史 II	2 (2)		2	2単位 以上修得	2単位 以上修得		
	美術教養特論 II ・考古学概論 I ・考古学概論 II ・芸術学	(2)	2 (2)	2 (2)				
C	専攻演習 I	6		6	48 単位 以上 修得	12単位 以上 修得	48 単位 以上 修得 (D群 以外 で)	洋画 日本画 立体造形 から選択
	専攻演習 II		6	6				
	専攻演習 III		6	6				
	専攻実習 I	4		4				
D	専攻実習 II	4		4	16単位 以上 修得	学位取得単位 にはなら ないが、 実技演習 II・III・ IV・VII、 実技実習 II・III・ IV・VI・ VII・VIII は、選択 して履修 ・修得可 い。		学位取得の希望 のない者は、C群 に替えて、D群 から選択履修も 可 (洋画・日本画・ デザイン・陶芸・ 染織・クラフト から選択)
	専攻実習 III		4	4				
	専攻実習 IV		4	4				
	専攻実習 V		4	4				
E	実技演習 I	6		6	12単位 以上 修得			
	実技演習 II	4		4				
	実技演習 III	4		4				
	実技演習 IV	4		4				
D	実技演習 V		6	6	16単位 以上 修得			
	実技演習 VI		6	6				
	実技演習 VII		4	4				
	実技実習 I	4		4				
	実技実習 II	4		4				
	実技実習 III	3		3				
	実技実習 IV	3		3				
	実技実習 V		4	4				
実技実習 VI		4	4					
E	進級制作	3		3	6単位 修得	6単位 修得		
	修了制作		3	3				

○ A、E群は必修。加えて学位授与申請希望者は、C群の実習科目は必修であり、D群も可能な範囲で履修することが望ましい。また、学位を希望しない学生は、専攻実習 I、II を実技実習 I、II で、また専攻実習 III、IV を実技実習 V、VI で替えることができる。

○ C群科目（学位取得要件科目C群）

専攻演習Ⅰ	洋画制作Ⅰ	日本画描写Ⅰ・Ⅱ	立体造形演習Ⅰ
専攻演習Ⅱ	油彩制作Ⅰ	日本画描写Ⅳ・Ⅴ	立体造形演習Ⅱ
専攻演習Ⅲ	油彩制作Ⅶ・油彩制作Ⅷ（デッサン）	日本画描写Ⅶ・Ⅷ	立体造形演習Ⅲ
専攻実習Ⅰ	洋画制作Ⅲ	日本画制作Ⅱ・Ⅲ	立体造形実習Ⅰ
専攻実習Ⅱ	洋画制作Ⅸ（古典技法）	日本画制作Ⅶ	立体造形実習Ⅱ
専攻実習Ⅲ	油彩制作Ⅲ	日本画制作Ⅷ・Ⅸ	立体造形実習Ⅲ
専攻実習Ⅳ	油彩制作Ⅸ（古典技法）	日本画制作Ⅻ・Ⅼ	立体造形実習Ⅳ

《C群》

科目名	科目設定の趣旨及び授業概要
専攻演習Ⅰ	芸術表現における「絵画」「立体造形」の理論や技法を学び、自己のアートマインド（芸術性）を追究する。
専攻演習Ⅱ	身近に存在するさまざまな芸術表現のモチーフ（対象）に関心に向け、表現の多様性を学ぶ。
専攻演習Ⅲ	いろいろな表現活動の研究を通して、造形表現の本質を修得させる。
専攻実習Ⅰ	自己のテーマを芸術的な観点から吟味させ、最も適切なモチーフを選定し、様々な表現要素を用いて制作できるようにする。
専攻実習Ⅱ	各自の個性に応じたテーマを選択させ、表現内容と表現活動が自分の中で一致するよう研究を深め、完成度の高い作品表現に結びつける。
専攻実習Ⅲ	広い視野と高度な視点に立って、各自の独自性が表現されるよう、多様な表現材料を使って、完成度の高い作品を制作する。
専攻実習Ⅳ	今までに学んだ芸術理論や表現方法等の修得度を確認し、独自の創作活動を通じて個性豊かな芸術性に富んだ作品を制作する。

○ 選択履修科目（専攻科教育課程のD群）

(a) 洋画系専門科目

実技演習Ⅰ（洋画制作Ⅰ） 実技演習Ⅲ（洋画制作Ⅵ）	実技演習Ⅱ（洋画制作Ⅳ・洋画制作Ⅴ） 実技演習Ⅳ（洋画制作Ⅹ（古典技法）・洋画制作Ⅷ（デッサン））
実技演習Ⅴ（油彩制作Ⅰ） 実技演習Ⅶ（油彩制作Ⅳ・油彩制作Ⅵ（自主制作））	実技演習Ⅵ（油彩制作Ⅶ・油彩制作Ⅷ（デッサン））
実技実習Ⅰ（洋画制作Ⅲ） 実技実習Ⅲ（洋画制作Ⅱ（版画））	実技実習Ⅱ（洋画制作Ⅸ（古典技法）） 実技実習Ⅳ（洋画制作Ⅶ）
実技実習Ⅴ（油彩制作Ⅲ） 実技実習Ⅶ（油彩制作Ⅴ）	実技実習Ⅵ（油彩制作Ⅸ（古典技法）） 実技実習Ⅷ（油彩制作Ⅱ（版画）・油彩制作Ⅹ（古典技法））

※実技実習Ⅶの油彩制作Ⅹにはレポート1単位を含む。

(b) 日本画系専門科目

実技演習Ⅰ（日本画描写Ⅰ・Ⅱ） 実技演習Ⅲ（模写Ⅱ）	実技演習Ⅱ（模写Ⅰ・日本画研究） 実技演習Ⅴ（日本画描写Ⅳ・Ⅴ）
実技演習Ⅵ（日本画描写Ⅶ・Ⅷ）	実技演習Ⅶ（日本画描写Ⅵ）
実技実習Ⅰ（日本画制作Ⅱ・Ⅲ） 実技実習Ⅲ（日本画制作Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）	実技実習Ⅱ（日本画制作Ⅶ） 実技実習Ⅳ（日本画制作Ⅵ）
実技実習Ⅴ（日本画制作Ⅷ・Ⅸ） 実技実習Ⅶ（日本画制作ⅩⅣ・Ⅹ・Ⅺ）	実技実習Ⅵ（日本画制作Ⅻ・Ⅼ）

(c) デザイン系専門科目

実技演習Ⅰ（映像Ⅰ） 実技演習Ⅲ（フォトデザインⅠ）	実技演習Ⅱ（映像Ⅱ） 実技演習Ⅳ（表現）
実技演習Ⅴ（映像Ⅲ） 実技演習Ⅶ（映像Ⅳ）	実技演習Ⅵ（クリエイティブ研究Ⅱ）
実技実習Ⅰ（グラフィック表現研究Ⅰ） 実技実習Ⅲ（ソーシャルデザインⅡ）	実技実習Ⅱ（ソーシャルデザインⅠ） 実技実習Ⅳ（クリエイティブ研究Ⅰ）
実技実習Ⅴ（グラフィック表現研究Ⅱ） 実技実習Ⅶ（フォトデザインⅡ）	実技実習Ⅵ（ソーシャルデザインⅢ） 実技実習Ⅷ（ソーシャルデザインⅣ）

(d) 陶芸系専門科目

実技演習Ⅰ（制作Ⅰ・Ⅴ） 実技演習Ⅲ（制作Ⅶ）	実技演習Ⅱ（制作Ⅲ） 実技演習Ⅳ（制作Ⅸ）
実技演習Ⅴ（制作Ⅰ・Ⅴ①） 実技演習Ⅶ（制作Ⅶ）	実技演習Ⅵ（制作Ⅲ・Ⅴ②）
実技実習Ⅰ（制作Ⅱ・Ⅵ①） 実技実習Ⅲ（制作Ⅷ）	実技実習Ⅱ（制作Ⅳ・Ⅵ②） 実技実習Ⅳ（制作Ⅹ）
実技実習Ⅴ（制作Ⅱ・Ⅳ） 実技実習Ⅶ（制作Ⅷ）	実技実習Ⅵ（制作Ⅵ・Ⅸ） 実技実習Ⅷ（制作Ⅹ）

(e) 染織系専門科目

実技演習Ⅰ（制作Ⅱ・Ⅴ） 実技演習Ⅲ（制作Ⅲ）	実技演習Ⅱ（制作Ⅰ） 実技演習Ⅳ（制作Ⅳ）
実技演習Ⅴ（制作Ⅰ・Ⅱ） 実技演習Ⅶ（制作Ⅳ）	実技演習Ⅵ（制作Ⅲ・Ⅵ）
実技実習Ⅰ（制作Ⅵ・Ⅷ） 実技実習Ⅲ（制作Ⅹ）	実技実習Ⅱ（制作Ⅶ・Ⅸ） 実技実習Ⅳ（制作Ⅺ）
実技実習Ⅴ（制作Ⅴ・Ⅷ） 実技実習Ⅶ（制作Ⅶ）	実技実習Ⅵ（制作Ⅸ・Ⅹ） 実技実習Ⅷ（制作Ⅺ）

(f) クラフト(工芸)デザイン系専門科目

実技演習Ⅰ（制作ⅠA） 実技演習Ⅲ（制作ⅠB）	実技演習Ⅱ（専攻造形演習Ⅰ） 実技演習Ⅳ（制作ⅡA）
実技演習Ⅴ（制作ⅤB・ⅥB） 実技演習Ⅶ（専攻造形演習Ⅱ）	実技演習Ⅵ（制作ⅣA・ⅤA）
実技実習Ⅰ（制作ⅡB・ⅢB） 実技実習Ⅲ（造形実習Ⅰ）	実技実習Ⅱ（専攻造形実習Ⅰ・制作ⅢA） 実技実習Ⅳ（制作ⅣB）
実技実習Ⅴ（制作ⅦB・ⅥA①） 実技実習Ⅶ（専攻造形実習Ⅱ）	実技実習Ⅵ（制作ⅧB・ⅥA②） 実技実習Ⅷ（造形実習Ⅱ）

◀D群▶

科目名	科目設定の趣旨及び授業概要
実技演習Ⅰ	表現のモチーフとなる対象を正確に観察することができ、かつ理解を深めることで、自己の表現が十分に発揮できるようにする。
実技演習Ⅱ	身近にある様々な造形メディアを研究することにより、自己の表現領域が広がり、表現形態も多様化できるようにする。
実技演習Ⅲ	専攻するメディアの特性と可能性を追求して、自己表現の支持体として修得できるようにする。
実技演習Ⅳ	作品に込めたコンセプトやメッセージを社会に向け強く発信できるようにプレゼンテーション能力を高める。
実技演習Ⅴ	造形作品と社会の関わりを理解して、アクションの必然性と重要性を学習し演習する。
実技演習Ⅵ	制作した作品を通して社会とコミュニケーションが取れるように、様々な方法と手段を研究する。
実技演習Ⅶ	自己の表現について到達目標と授業計画に基づいて、高い完成度で造形表現できるようにする。
実技実習Ⅰ	モチーフ（主題）となる対象物に広く関心を向けて、スケッチ、デッサンやデザインなどの表現方法の創意工夫により、客観的観察力に基づく描写能力の向上を図る。
実技実習Ⅱ	表現のテーマ設定や可能性を研究して、メディアを通してイメージの具現化を実習する。
実技実習Ⅲ	造形表現のための技法とメディア技術力の練磨、より高次元な技術の習得を目指して実習する。
実技実習Ⅳ	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。
実技実習Ⅴ	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。
実技実習Ⅵ	美術工芸作品に関心を向け研究することより、自身が目指すべき個性の指針が発見できるようにする。
実技実習Ⅶ	造形表現の領域においての自己の確立と個性の表出がいかに社会とかかわっているのかを追求する。
実技実習Ⅷ	自己の到達目標を超えた次元での完成を体感することで得られる達成感を目指して実習する。

(7) 専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

① 洋画系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	洋画制作Ⅰ	6		6	
	洋画制作Ⅳ・Ⅴ	4		4	
	洋画制作Ⅵ	4		4	
	洋画制作Ⅹ (古典技法)	2		2	
	洋画制作Ⅷ (デッサン)	2		2	
	油彩制作Ⅰ		6	6	
	油彩制作Ⅶ		4	4	
	油彩制作Ⅷ (デッサン)		2	2	
	油彩制作Ⅳ・Ⅵ (自主制作)		4	4	
	洋画制作Ⅲ	4		4	
	洋画制作Ⅸ (古典技法)	4		4	
	洋画制作Ⅱ (版画)	3		3	
	洋画制作Ⅶ	3		3	
	油彩制作Ⅲ		4	4	
	油彩制作Ⅸ (古典技法)		4	4	
	油彩制作Ⅴ		3	3	
	油彩制作Ⅱ (版画)		1	1	
油彩制作Ⅹ (古典技法)		2	2		
※古典技法にはレポート1単位含む					

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

② 日本画系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
	D	描写Ⅰ	4		4
描写Ⅱ		2		2	
日本画研究		2		2	
模写Ⅰ		2		2	
模写Ⅱ		4		4	
描写Ⅳ			4	4	
描写Ⅴ			2	2	
描写Ⅵ			4	4	
描写Ⅶ			2	2	
描写Ⅷ			4	4	
制作Ⅰ		1		1	
制作Ⅱ		3		3	
制作Ⅲ		1		1	
制作Ⅳ		1		1	
制作Ⅴ		1		1	
制作Ⅵ		3		3	
制作Ⅶ		4		4	
制作Ⅷ			3	3	
制作Ⅸ			1	1	
制作Ⅹ			1	1	
制作Ⅺ			1	1	
制作Ⅻ			3	3	
制作Ⅼ			1	1	
制作Ⅽ			1	1	

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

③ デザイン系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	映像Ⅰ	6		6	
	映像Ⅱ	4		4	
	フォトデザインⅠ	4		4	
	表現	4		4	
	映像Ⅲ		6	6	
	クリエイティブ研究Ⅱ		6	6	
	映像Ⅳ		4	4	
	グラフィック表現研究Ⅰ	4		4	
	ソーシャルデザインⅠ	4		4	
	ソーシャルデザインⅡ	3		3	
	クリエイティブ研究Ⅰ	3		3	
	グラフィック表現研究Ⅱ		4	4	
	ソーシャルデザインⅢ		4	4	
	フォトデザインⅡ		3	3	
ソーシャルデザインⅣ		3	3		

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

④ 陶芸系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	制作Ⅰ	4		4	
	制作Ⅲ	4		4	
	制作Ⅴ	2		2	
	制作Ⅶ	4		4	
	制作Ⅸ	4		4	
	制作Ⅰ		4	4	
	制作Ⅲ		4	4	
	制作Ⅴ		4	4	
	制作Ⅶ		4	4	
	制作Ⅱ	3		3	
	制作Ⅳ	3		3	
	制作Ⅵ	3		3	
	制作Ⅷ	3		3	
	制作Ⅹ	3		3	
	制作Ⅱ		1	1	
	制作Ⅳ		3	3	
	制作Ⅵ		1	1	
	制作Ⅷ		3	3	
	制作Ⅸ		3	3	
	制作Ⅹ		3	3	

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

⑤ 染織系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	制作Ⅰ	4		4	
	制作Ⅱ	4		4	
	制作Ⅲ	4		4	
	制作Ⅳ	4		4	
	制作Ⅴ	2		2	
	制作Ⅰ		4	4	
	制作Ⅱ		2	2	
	制作Ⅲ		4	4	
	制作Ⅳ		4	4	
	制作Ⅵ		2	2	
	制作Ⅵ	1		1	
	制作Ⅶ	1		1	
	制作Ⅷ	3		3	
	制作Ⅸ	3		3	
	制作Ⅹ	3		3	
	制作Ⅺ	3		3	
	制作Ⅴ		3	3	
	制作Ⅶ		3	3	
	制作Ⅷ		1	1	
	制作Ⅸ		1	1	
	制作Ⅹ		3	3	
制作Ⅺ		3	3		

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

⑥ クラフト（工芸）デザイン系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	制作ⅠA	6		6	
	専攻造形演習Ⅰ	4		4	
	制作ⅠB	4		4	
	制作ⅡA	4		4	
	制作ⅣA		4	4	
	制作ⅤA		2	2	
	制作ⅤB		4	4	
	制作ⅥB		2	2	
	専攻造形演習Ⅱ		4	4	
	制作ⅡB	1		1	
	専攻造形実習Ⅰ	1		1	
	造形実習Ⅰ	3		3	
	制作ⅢA	3		3	
	制作ⅢB	3		3	
	制作ⅣB	3		3	
	制作ⅥA		3	3	
	制作ⅦB		3	3	
	制作ⅧB		3	3	
	専攻造形実習Ⅱ		3	3	
造形実習Ⅱ		3	3		

II.専攻科の授業科目概要 A群科目 ■専攻理論

専攻科1年次 講義 4単位 通年

科目名	日本美術史	担当者	宮嶋幸子
授業概要	本講義では平安後期以降の絵画を中心として日本美術の歴史を概観することにより、古代から1930年代にかけての日本美術史の基礎概念を学習します。		
到達目標	1 各時代の代表的な作品や作家を分析することで、それらの特質を説明できる 2 それぞれの美術が成立した歴史的経緯を具体例をあげて説明できる 3 過去の美術が現在の美術に与えた影響について具体的に説明できる 4 「芸術」「美術」「美術史」という枠組みが日本に導入された経緯を説明できる		
授 業 計 画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 美術史の対象と日本美術史の時代区分 2 平安時代 やまと絵1:「唐絵」と「やまと絵」の違いについて 3 平安時代 やまと絵2:みやびを描く「源氏物語絵巻」 4 平安時代 やまと絵3:コトを描く「信貴山縁起絵巻」と「伴大納言絵詞」 5 鎌倉時代 肖像画:個人を描くということ「似絵」と「頂相」 6 鎌倉時代 初期水墨画:禅僧と中国文化 7 室町時代 水墨画:詩画軸 理想郷に遊ぶ 8 室町時代 水墨画:雪舟 日本水墨画の大成 9 室町時代 狩野派の登場:和漢融合 10 桃山時代 金碧障壁画:狩野永徳 権力と絵画の関係 11 桃山時代 近世初期風俗画:「ひと」への関心 12 平安時代～桃山時代のまとめ:やまと絵・水墨画から狩野派への流れを中心に 13 江戸時代 ひとり立ち美人図と浮世絵の誕生 14 江戸時代 浮世絵:モードを描く 15 江戸時代 若冲と応挙:江戸時代における「写生」 16 江戸時代 琳派:絵画と工芸の融合 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 江戸時代 文人画派:中国の「文人画」と日本の「南画」の差異 2 江戸時代 文人画派の展開:関西南画と関東南画 3 江戸時代 洋風画:実証主義の流行と写実的表現 4 江戸時代 江戸時代のやまと絵:復古やまと絵 5 江戸時代のまとめ:多種多様な美術の誕生とその背景 6 明治時代 「洋画」の誕生:美術教育と美術学校 7 明治時代 「日本画」の誕生:フェノロサが日本絵画に与えた影響 8 明治時代 横山大観と日本美術院:岡倉天心が目指したもの 9 明治時代 明治美術会:日本に根づく洋画を目指して 10 明治時代 黒田清輝と白馬会:「美術」の導入 11 大正時代 フェウザン会:個性を主張する画家たち 12 大正時代 グラフィックデザイン:杉浦非水にみる西洋近代ポスター芸術の受容 13 大正時代 新版画:生まれ変わる浮世絵 小林清親と川瀬巴水 14 明治時代～大正時代まとめ:日本における「芸術」概念受容に伴う変化を中心に 15 昭和時代 戦前の前衛美術:1930年協会と独立美術協会 16 昭和時代 戦争と美術:藤田嗣治 		
教科書 参考書	教科書は特に指定しません。講義中にレジュメを配布します。参考書は適宜講義中に紹介します。		
評価の 方法	授業への取り組み方(提出物・受講態度など)50% 学期末試験50%、以上を総合的に判断して評価します。なお出席回数が規定を満たしていない場合は不可とします。		
実務経験	美術館および博物館該当施設での伝統工芸担当の学芸員経験を生かして、日本の美術史について講義します。		
備考	講義内容の性質上、スライドやビデオ等の視覚資料を中心とした講義になります。		

科目名	西洋美術史	担当者	高 藤 大 樹
授業概要	この授業では、古代から 20 世紀前半までの西洋美術史の基本的な流れを一年間かけて扱います。美術には、時代を超えて共通する伝統的な主題や造形上の約束事がある一方で、同時に、時代や地域ごとに異なる様式（独自の型）もあり、全体像がつかみにくいところもあります。授業では、「各時代・地域で選択された特徴的な型や主題とは何か？」そして「それがどのように乗り越えられていったのか？」の二点をテーマに解説していきます。代表的な様式や作品を広く紹介しますので、未知の作品と出合っても方向がわかるような自分の西洋美術史マップを作っていきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋美術史の基本的な流れを理解し、説明することができる。（期末レポート試験で確認） ・ 各時代における代表的な様式や主題を説明することができる。（期末レポート試験および、毎回の小課題で確認） 		
授業計画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス / 古代西洋における美術の世界 2 古代の美術(1) ギリシア美術 3 古代の美術(2) ローマ美術 4 中世キリスト教美術(1) 初期キリスト教美術 と ビザンティン美術 5 中世キリスト教美術(2) ロマネスク（中世教会建築の様式 1） 6 中世キリスト教美術(3) ゴシック（中世教会建築の様式 2） 7 中世末期の美術 8 ルネサンス美術(1) 古典復興の時代 9 ルネサンス美術(2) 盛期ルネサンス 10 ルネサンスの伝播と変容(1) 北方ルネサンスと宗教改革 11 ルネサンスの伝播と変容(2) マニエリスム 12 バロック美術(1) 対抗宗教改革とイタリアの状況 13 バロック美術(2) 各国の状況 14 アカデミーと古典主義 15 17 世紀オランダ絵画 16 ロココ美術 / まとめ <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス / 「伝統」から「革新」の時代（近代）へ 2 革命期の美術(1) 新古典主義 3 革命期の美術(2) ロマン主義 4 自然主義とリアリズム 5 印象主義 6 後期印象主義 7 世紀末芸術 8 フォーヴィスム 9 キュビスム 10 ドイツ表現主義 11 デ・スタイル 12 ロシア・アヴァンギャルド 13 ダダ運動 14 シュルレアリスム 15 抽象表現主義 16 まとめ 		
教科書参考書	毎回、参考資料としてプリントを配布します。		
評価の方法	期末レポート試験（70%）と、授業に取り組む姿勢（毎回の小課題、30%）で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、西洋美術史の基本的な流れと代表的な作品名や作家名、主題や造形表現にたいする基礎知識が身に付く指導をする。		
備考			

科目名	美学・芸術学	担当者	石黒義昭
授業概要	<p>美学 Ästhetik は 18 世紀に成立した学問分野で、人間の認識・芸術・美の三つの問題を問うてきました。最近では原義に戻って感性論と訳されることがふえています。芸術学 Kunstwissenschaft は 19 世紀に誕生しました。ただ、芸術の問題は美学の問いに含まれるため、通常、芸術学は美学の一部と見なされます。この講義では、本学専攻科を修了し、幅広く活躍している作家たちと交流するなかで教わった「作家が考えていくことになる問題」を、美学の他、美術史の見地からもとりあげていきます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で紹介した文献に目とおし、美学の問いを共有することができる 2. 講義で紹介したものの見方（美意識）を簡潔にまとめることができる 3. 「美学すること」を制作に活かす態度を身につけることができる 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 美学と感性論、そして芸術学。21 世紀における感性論 3 古代ギリシア 4 Platon, B.C. 427 - B.C. 347 —— 存在への問い 5 Platon, B.C. 427 - B.C. 347 —— 正義。善と美 6 Platon, B.C. 427 - B.C. 347 —— アイデア論 7 Aristoteles, B.C. 384 - B.C. 322 —— 存在への問い。質料形相論など 8 Aristoteles, B.C. 384 - B.C. 322 —— 『詩学』 9 Augustinus, 354 - 430 —— 『告白』 10 Augustinus, 354 - 430 —— 『真の宗教 De vera religione』 11 Augustinus, 354 - 430 —— 『音楽論 De Musica』 12 Thomas Aquinas, ca. 1225 - 1274 —— 『神学大全』 13 ルネサンス 1 14 ルネサンス 2 15 Descartes, 1596 - 1650 —— 『方法叙説』 16 レポート提出または試験 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期のまとめ 2 Leibniz, 1646 - 1716 —— 表出 3 Leibniz, 1646 - 1716 —— モナド 4 啓蒙の諸相。感性的認識 scientia cognitionis sensitivae は学として問うことができるか 5 Baumgarten, 1714 - 1762 —— 詩論 6 Baumgarten, 1714 - 1762 —— 『美学 [感性論] aesthetica』 7 Baumgarten, 1714 - 1762 —— 『形而上学』 8 Kant, 1724 - 1804 —— 存在論と認識論（『純粹理性批判』） 9 Kant, 1724 - 1804 —— カントと神経科学から見た認識、美しさの経験 10 Kant, 1724 - 1804 —— 趣味と無関心性（『判断力批判』） 11 想像力と共感 12 現象学 —— なにかが存在していることと、美しさや芸術の関係 1 13 現象学 —— なにかが存在していることと、美しさや芸術の関係 2 14 現象学 —— なにかが存在していることと、美しさや芸術の関係 3 15 現象学 —— なにかが存在していることと、美しさや芸術の関係 4 16 レポート提出または試験 		
教科書 参考書	資料はメールに PDF ファイルを添付して配布します。講義開始後、空メールを送ってください（件名：美学）。アドレス：ishiguro-s@naragei.ac.jp		
評価の方法	試験（70%）+ 授業中に書いてもらうコメント（30%）。		
実務経験	大阪市立大学、京都市立芸術大学、大阪大学、立命館大学大学院などで、美学や芸術学、西洋美術史の講義と演習を担当してきた経験を活かし、哲学的視点と歴史学的視点から芸術について考えてもらう。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画は学生の様子を見ながら変更することがあります。 ・美学は美しさや「芸術」と密接に関係しています。多くの「作品」に接し、自然の美しさにも目をむけてください。西欧の伝統だけではなく、日本的なものや東洋的なものにも親しんでいってください。 		

科目名	美術教養特論 I 美学・美術史 (I)	担当者	高藤大樹
授業概要	美術館である作品と向かい合ったとき、街中の景観や車窓からの風景をふと目にしたとき、ソファでマンガやスマートフォンの画面を眺めるとき。私たちは日常生活の随所で美的=感性的なものに触れ魅了されています。美的なものの魅力について客観的に考え、自身の言葉で説明できるようになること。それがこの授業の目標です。授業では、特に西洋における美や芸術の思想を中心に、著名な概念・トピック・キーワードを時代ごとに取り上げていきます。それらを通じて、自分が感じ、伝えたい魅力を語るための知識と思考を深めましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美や芸術と関わる基本的な概念・トピックとそれらの内容を、自らの言葉で説明することができる。(期末レポート試験で確認) ・美や芸術をめぐる様々な立場にたいして自らの意見を述べるすることができる。(期末レポート試験および、毎回の小課題で確認) 		
授業計画	<p>前期 (受講生の理解の度合いに合わせて内容を多少変更する場合があります。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス / 狭義の美と広義の美 2 古代における美の思想(1) (コスモスの思想 と 古典美・古典的な芸術観) 3 古代における美の思想(2) (プラトンのイデア論/アリストテレスのミメシス論) 4 中世における美の思想 (教会堂建築の表現と神の美) 5 ルネサンス運動 (人間精神と自然科学/芸術家の誕生) 6 ルネサンス以後の動向 (美的効果/色彩論争/ピクチャレスク) 7 ヴィンケルマンの『ギリシア美術模倣論』(古典美 vs. パレンテュルソス) 8 バウムガルテンの美学 (感性) 9 カントの美学(1) (趣味判断/天才) 10 カントの美学(2) (崇高) 11 ロマン主義の展開 (自由な創造/ロマン) 12 シラーの美学 (美的教育/遊戯) 13 ヘーゲルの美学 (芸術の終焉) 14 美的な領域の広がり(1) (醜・グロテスク) 15 美的な領域の広がり(2) (滑稽・笑い) 16 まとめ 		
教科書参考書	毎回、参考資料としてプリントを配布します。		
評価の方法	期末レポート試験 (70%) と、授業に取り組む姿勢 (毎回の小課題、30%) で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、美学・芸術思想史、西洋美術史に関する基本知識が身に付く指導をする。		
備考			

科目名	美術教養特論 I 美学・美術史 (II)	担当者	高 藤 大 樹
授業概要	美術館である作品と向かい合ったとき、街中の景観や車窓からの風景をふと目にしたとき、ソファでマンガやスマートフォンの画面を眺めるとき。私たちは日常生活の随所で美的=感性的なものに触れ魅了されています。美的なものの魅力について客観的に考え、自身の言葉で説明できるようになること。それがこの授業の目標です。授業では、特に西洋における美や芸術の思想を中心に、著名な概念・トピック・キーワードを時代ごとに取り上げていきます。それらを通じて、自分が感じ、伝えたい魅力を語るための知識と思考を深めましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美や芸術と関わる基本的な概念・トピックとそれらの内容を、自らの言葉で説明することができる。(期末レポート試験で確認) ・美や芸術をめぐる様々な立場にたいして自らの意見を述べるができる。(期末レポート試験および、毎回の小課題で確認) 		
授業計画	<p>後 期 (受講生の理解の度合いに合わせて内容を多少変更する場合があります。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス / 近代 (モダン) 世界と大衆の発生 2 19 世紀末とニーチェの美学 (アポロ的とディオニュソスの/美と陶酔) 3 19 世紀末とボードレー、ヴァレリーの美学 (美の表面性/装飾) 4 19 世紀末と印象主義の美学 (美の表面性とはかなさ) 5 モダニズムの芸術観 (1) (抽象) 6 モダニズムの芸術観 (2) (モダン建築/機能主義) 7 大衆社会と近代工芸・デザインの思想 (1) (アーツ・アンド・クラフツ運動/応用芸術) 8 大衆社会と近代工芸・デザインの思想 (2) (バウハウスのデザイン思想/民藝運動) 9 アヴァンギャルドの思想 (美・芸術の新鮮さ) 10 大衆文化と複製技術時代の芸術 (1) (アウラとショック) 11 大衆文化と複製技術時代の芸術 (2) (写真/映画) 12 エコール・ド・パリの動向 (美・芸術と追憶) 13 現代「アート」の諸相 (1) (ポップ・アート) 14 現代「アート」の諸相 (2) (日常と芸術の越境) 15 ポストモダニズム (ポストモダン建築/現代消費社会の文化の志向) 16 まとめ 		
教科書参考書	毎回、参考資料としてプリントを配布します。		
評価の方法	期末レポート試験 (70%) と、授業に取り組む姿勢 (毎回の小課題、30%) で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、美学・芸術思想史、西洋美術史に関する基本知識が身に付く指導をする。		
備考			

科目名	美術教養特論Ⅱ 考古学概論（Ⅰ）	担当者	ト 部 行 弘
授業概要	地上に残る遺跡や発掘調査で明らかになった資料をもとに、旧石器時代から飛鳥、奈良時代までの日本の歴史を描いてみたい。特に日本の古代史の中心地であった大和（奈良）の遺跡に重点を置いて考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文献資料では知ることのできない古代人の生活や思想を遺跡や遺物を通して考えることができる。 ・過去を考察することによって、現代人が進むべき将来について論じることができる。 		
授業計画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 考古学とはどんな学問か？（1）－何のために学ぶのか？ 2 考古学とはどんな学問か？（2）－資料と研究方法 3 考古学とはどんな学問か？（3）－時代区分と世界の考古学 4 旧石器時代－日本列島に人間が住み始めたころ 5 縄文時代－1万年もの持続可能社会 6 弥生時代（1）－稲作がもたらしたもの 7 弥生時代（2）－クニから国へ 8 古墳時代（1）－前方後円墳の出現と国家の誕生 9 古墳時代（2）－倭の五王とその時代 10 古墳時代（3）－藤ノ木古墳の諸問題（1） 11 古墳時代（4）－藤ノ木古墳の諸問題（2） 12 古墳時代（5）－構内の埴輪展示作品見学 13 飛鳥時代（1）－飛鳥の諸宮 14 飛鳥時代（2）－飛鳥の古墳 15 飛鳥時代（3）－飛鳥の寺院 16 まとめと補足 		
教科書 参考書	毎時にプリント資料を配布する。必要に応じ、参考図書等を指示する。		
評価の 方法	授業へ取り組む姿勢やレポートなどで評価する。		
実務経験	博物館学芸員などの実務経験や報告書、論文などの執筆経験を生かして授業を行う。		
備考			

科目名	美術教養特論Ⅱ 考古学概論(Ⅱ)	担当者	ト 部 行 弘
授業概要	「シルクロードの考古学」というテーマでユーラシア大陸を東西に結ぶ交易の道の歴史と、その道を通じて実際にもたらされた文物について詳しく検討する。奈良はシルクロードの終着点といわれ、正倉院や法隆寺などに遺された文物はそれを物語るが、その文化的背景について学ぶ。		
到達目標	私たちが日本古来の文化と思っているものの中には、外来文化が基礎となっているものが多い。シルクロードにかかわる遺跡や遺物を俯瞰的にとらえることにより、あらためて日本文化の特質を論じることができる。		
授業計画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 シルクローとは何か？ 2 シルクロードの歴史(1)－漢代の西域経営 3 シルクロードの歴史(2)－仏教の成立と伝来 4 シルクロードの歴史(3)－玄奘の入竺 5 シルクロードの探検史(1)－ロシア、イギリス、ヘディン 6 シルクロードの探検史(2)－スタイン、ドイツ、大谷探検隊 7 シルクロードの遺跡(1)－石窟寺院(1) 8 シルクロードの遺跡(2)－石窟寺院(2) 9 シルクロードの遺跡(3)－スキタイ、パジリク、匈奴の遺跡 10 シルクロードでもたらされたもの(1)－ガラス(1) 11 シルクロードでもたらされたもの(2)－ガラス(2) 12 シルクロードでもたらされたもの(3)－陶磁器(1) 13 シルクロードでもたらされたもの(4)－陶磁器(2) 14 シルクロードでもたらされたもの(5)－金属器(1) 15 シルクロードでもたらされたもの(6)－金属器(2) 16 まとめと補足 		
教科書 参考書	毎時にプリント資料を配布する。必要に応じ、参考図書等を指示する。		
評価の 方法	授業へ取り組む姿勢やレポートなどで評価する。		
実務経験	博物館学芸員などの実務経験や報告書、論文などの執筆経験を生かして授業を行う。		
備考			

科目名	美術教養特論Ⅱ 芸術学	担当者	村上真樹
授業概要	美術批評家ティエリー・ド・デュージュが指摘するように、「芸術 (art)」とは、非常に範囲が広く、またあいまいな概念です。「芸術」という語が何を意味するのか、そのことを明確に把握するためにも、本講義では芸術がたどった歴史を概観し、そこでの争点を整理していきます。受講生の皆さんには、創作における自身の考えを芸術史・芸術論の中に位置づけ、理論的に説明する方法を身につけてほしいと思います。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術の歴史について説明することができる。 ・ 芸術の理論を創作活動につなげることができる。 ・ 自身の作品を芸術論の用語を用いて説明することができる。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2 古典古代の芸術論 3 ルネサンスの芸術理論① 4 ルネサンスの芸術理論② 5 芸術における内容と形式 6 芸術における模倣と創造 7 芸術における虚構と真理 8 「芸術家」と「天才」 9 ロマン主義の芸術論 10 モダニズム芸術の理論① 11 モダニズム芸術の理論② 12 現代アートの理論① 13 現代アートの理論② 14 アートワールドの理論 15 芸術とは何か？ 16 まとめ 		
教科書 参考書	必要に応じてプリントを配布します。 参考文献については適宜紹介します。		
評価の方法	平常点（小レポート、30%）と期末テスト（レポート試験、70%）。 芸術について深く思考しようとする姿勢を評価します。		
実務経験			
備考			

科目名	専攻演習Ⅰ（洋画制作Ⅰ）	担当者	平田 泰延・小笠 美華
授業概要	<p>前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。</p> <p>後期は自身でテーマを選択し、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていけるよう技術と内容を指導する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。 ・社会における絵画の現在について考えることができる。 ・制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っていける。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 風景 油彩 10号～15号 3 人体 女性 立ちポーズ デッサン 4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 30号 5 人体 女性 立ちポーズ 6 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号① 8 講評会 9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号② 10 人体 男性 動作 デッサン 11 人体 二人 組みポーズ デッサン 12 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号① 13 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号② 14 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号③ 15 合同講評会 16 自画像 10号 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作につながる作品 30号程度 2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ① 3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ② 4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ③ 5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上 6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習① 9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習② 10 制作Ⅰ.5 完成 11 制作Ⅱ.1 油彩 50号以上一点以上 12 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開 13 合同講評会 14 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習 15 制作Ⅱ.4 完成 16 審査 		
教科書参考書	参考作品、作家、書籍を随時紹介。		
評価の方法	授業に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。		
備考			

科目名	専攻演習Ⅰ（日本画描写Ⅰ・Ⅱ）	担当者	福井 悠・石股 昭																																																																																																
授業概要	自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を高めてほしい。 また、日本画制作と連動して画材研究や、特に岩絵具の持つ独特の美しさを生かした表現技法を研究する。																																																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・題材となる写生作品を完成させる。 ・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。 ・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。 																																																																																																		
授業計画	<p>前期</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>制作1／オリエンテーション・小下図</td> <td>制作1／題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>制作1／小下図・草稿</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>制作1／パネル制作・水張り・骨がき</td> <td>人物制作（80号）／裸婦デッサン1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>制作1／下塗り</td> <td>人物制作／裸婦デッサン2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>制作1／水干彩色1</td> <td>人物制作／裸婦デッサン3</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>制作1／水干彩色2</td> <td>人物制作／裸婦デッサン4</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>制作1／岩絵具彩色1</td> <td>人物制作／草稿</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>制作1／岩絵具彩色2</td> <td>人物制作／草稿・小下図</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>制作1／岩絵具彩色3</td> <td>制作2／取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>合評会</td> <td>制作2／取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>制作2／小下図・草稿</td> <td>制作2／題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>制作2／小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>制作2／パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>制作2／下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>制作2／水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>合評会</td> <td></td> </tr> </table> <p>後期</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>制作2／水干彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>制作2／岩絵具彩色1</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>制作2／岩絵具彩色2</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>制作2／岩絵具彩色3</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>合評会</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究4</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>制作3／小下図・草稿</td> <td>制作3／題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>制作3／小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>制作3／パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>制作3／下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>制作3／水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>制作3／水干彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>制作3／岩絵具彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>制作3／岩絵具彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>制作3／岩絵具彩色3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>制作3／岩絵具彩色4</td> <td>学外講師による特別講義</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>合評会</td> <td></td> </tr> </table>			1	制作1／オリエンテーション・小下図	制作1／題材研究発表	2	制作1／小下図・草稿		3	制作1／パネル制作・水張り・骨がき	人物制作（80号）／裸婦デッサン1	4	制作1／下塗り	人物制作／裸婦デッサン2	5	制作1／水干彩色1	人物制作／裸婦デッサン3	6	制作1／水干彩色2	人物制作／裸婦デッサン4	7	制作1／岩絵具彩色1	人物制作／草稿	8	制作1／岩絵具彩色2	人物制作／草稿・小下図	9	制作1／岩絵具彩色3	制作2／取材（写生）とテーマの研究1	10	合評会	制作2／取材（写生）とテーマの研究2	11	制作2／小下図・草稿	制作2／題材研究発表	12	制作2／小下図・草稿・草稿合評		13	制作2／パネル制作・水張り・骨がき		14	制作2／下塗り		15	制作2／水干彩色1		16	合評会		1	制作2／水干彩色2		2	制作2／岩絵具彩色1	制作3／取材（写生）とテーマの研究1	3	制作2／岩絵具彩色2	制作3／取材（写生）とテーマの研究2	4	制作2／岩絵具彩色3	制作3／取材（写生）とテーマの研究3	5	合評会	制作3／取材（写生）とテーマの研究4	6	制作3／小下図・草稿	制作3／題材研究発表	7	制作3／小下図・草稿・草稿合評		8	制作3／パネル制作・水張り・骨がき		9	制作3／下塗り		10	制作3／水干彩色1		11	制作3／水干彩色2		12	制作3／岩絵具彩色1		13	制作3／岩絵具彩色2		14	制作3／岩絵具彩色3		15	制作3／岩絵具彩色4	学外講師による特別講義	16	合評会	
1	制作1／オリエンテーション・小下図	制作1／題材研究発表																																																																																																	
2	制作1／小下図・草稿																																																																																																		
3	制作1／パネル制作・水張り・骨がき	人物制作（80号）／裸婦デッサン1																																																																																																	
4	制作1／下塗り	人物制作／裸婦デッサン2																																																																																																	
5	制作1／水干彩色1	人物制作／裸婦デッサン3																																																																																																	
6	制作1／水干彩色2	人物制作／裸婦デッサン4																																																																																																	
7	制作1／岩絵具彩色1	人物制作／草稿																																																																																																	
8	制作1／岩絵具彩色2	人物制作／草稿・小下図																																																																																																	
9	制作1／岩絵具彩色3	制作2／取材（写生）とテーマの研究1																																																																																																	
10	合評会	制作2／取材（写生）とテーマの研究2																																																																																																	
11	制作2／小下図・草稿	制作2／題材研究発表																																																																																																	
12	制作2／小下図・草稿・草稿合評																																																																																																		
13	制作2／パネル制作・水張り・骨がき																																																																																																		
14	制作2／下塗り																																																																																																		
15	制作2／水干彩色1																																																																																																		
16	合評会																																																																																																		
1	制作2／水干彩色2																																																																																																		
2	制作2／岩絵具彩色1	制作3／取材（写生）とテーマの研究1																																																																																																	
3	制作2／岩絵具彩色2	制作3／取材（写生）とテーマの研究2																																																																																																	
4	制作2／岩絵具彩色3	制作3／取材（写生）とテーマの研究3																																																																																																	
5	合評会	制作3／取材（写生）とテーマの研究4																																																																																																	
6	制作3／小下図・草稿	制作3／題材研究発表																																																																																																	
7	制作3／小下図・草稿・草稿合評																																																																																																		
8	制作3／パネル制作・水張り・骨がき																																																																																																		
9	制作3／下塗り																																																																																																		
10	制作3／水干彩色1																																																																																																		
11	制作3／水干彩色2																																																																																																		
12	制作3／岩絵具彩色1																																																																																																		
13	制作3／岩絵具彩色2																																																																																																		
14	制作3／岩絵具彩色3																																																																																																		
15	制作3／岩絵具彩色4	学外講師による特別講義																																																																																																	
16	合評会																																																																																																		
教科書参考書	美術全集																																																																																																		
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。																																																																																																		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。																																																																																																		
備考																																																																																																			

科目名	専攻演習 I (立体造形演習 I)	担当者	今 西 賢
授業概要	立体造形表現の基礎となる線、面、量の三要素に焦点を当て、要素ごとの素材を用いて課題制作を行います。また、単一素材だけでなく複数の異なる要素を持つ素材を組み合わせることで、立体造形表現の可能性を体感し、学習します。		
到達目標	三次元空間において線、面、量を駆使し、基礎的な立体造形を行うことができる。 立体表現を行う際に必要となる素材を制御できる。 作品の概要、制作意図等を言語化し、説明できる。		
授業計画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、「線」の素材・テーマ研究 1-1 2 「線」の素材・テーマ研究 1-2 3 「線」の素材・テーマ研究 1-3 4 「線」の素材・テーマ研究 2-1 5 「線」の素材・テーマ研究 2-2 6 「線」の素材・テーマ研究 2-3 7 「線」の素材・テーマ研究 3-1 8 「線」の素材・テーマ研究 3-2 9 「線」の素材・テーマ研究 3-3 10 「面」の素材・テーマ研究 1-1 11 「面」の素材・テーマ研究 1-2 12 「面」の素材・テーマ研究 1-3 13 「面」の素材・テーマ研究 2-1 14 「面」の素材・テーマ研究 2-2 15 「面」の素材・テーマ研究 2-3 16 前期まとめ <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「量」(空間)の数值制御 1 2 「量」(空間)の数值制御 2 3 「量」(空間)の数值制御 3 4 複数素材を用いた立体造形 1-1 5 複数素材を用いた立体造形 1-2 6 複数素材を用いた立体造形 1-3 7 複数素材を用いた立体造形 1-4 8 複数素材を用いた立体造形 1-5 9 複数素材を用いた立体造形 1-6 10 複数素材を用いた立体造形 2-1 11 複数素材を用いた立体造形 2-2 12 複数素材を用いた立体造形 2-3 13 複数素材を用いた立体造形 2-4 14 複数素材を用いた立体造形 2-5 15 複数素材を用いた立体造形 2-6 16 まとめ 		
教科書参考書	なし。課題に応じてこちらで資料を用意します。		
評価の方法	授業に取り組む姿勢、課題作品、および作品のプレゼンテーションで評価します。		
実務経験	セットデザイン、小道具の制作およびイラストの描画等テレビ業界での実務経験を活かしビジュアルデザインの実践的な考え方や制作への取り組み方を指導します。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅰ（洋画制作Ⅲ）	担当者	片野 まん
授業概要	<p>前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。 後期は自身でテーマを選択し、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていけるよう技術と内容を指導する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。 ・ 社会における絵画の現在について考えることが出来る。 ・ 制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っていける。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 風景 油彩 10号～15号 3 人体 女性 立ちポーズ デッサン 4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 30号 5 人体 女性 立ちポーズ 6 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号① 8 講評会 9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号② 10 人体 男性 動作 デッサン 11 人体 二人 組みポーズ デッサン 12 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号① 13 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号② 14 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号③ 15 合同講評会 16 自画像 10号 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作につながる作品 30号程度 2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ① 3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ② 4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ③ 5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上 6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習① 9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習② 10 制作Ⅰ.5 完成 11 制作Ⅱ.1 油彩 50号以上一点以上 12 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開 13 合同講評会 14 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習 15 制作Ⅱ.4 完成 16 審査 		
教科書参考書	<p>参考作品、作家、書籍を随時紹介。</p>		
評価の方法	<p>授業に取り組む姿勢と、作品による評価。</p>		
実務経験	<p>個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。</p>		
備考			

科目名	専攻実習Ⅰ（日本画制作Ⅱ・Ⅲ）	担当者	辻野 宗一・広岡 真彩彦
授業概要	<p>自己の設定したテーマを造形的な観点から吟味させ、そのテーマに基づく最も適切なモチーフを選定し独自の表現へと発展させる。</p> <p>自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の段階で、制作テーマの選定、画面の構成、色調等、今までに学習した表現技法を最大限駆使して、意図する内容を最も効果的に表現できているかをそれぞれ厳しく追求し、高度な表現へと深まるよう制作する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づく最も適切な表現を小下図を通して研究する。 ・表現技法や材料を生かした作品を完成させる。 ・自らの作品について客観的に理解し述べるができる。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作1／オリエンテーション・小下図 2 制作1／小下図・草稿・小下図研究発表 3 制作1／パネル制作・水張り・骨がき 4 制作1／下塗り 5 制作1／水干彩色1 6 制作1／水干彩色2 7 制作1／岩絵具彩色1 8 制作1／岩絵具彩色2 9 制作1／岩絵具彩色3 10 合評会 11 制作2／小下図・草稿 12 制作2／小下図・草稿・小下図研究発表 13 制作2／パネル制作・水張り・骨がき 14 制作2／下塗り 15 制作2／水干彩色1 16 合評会 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作2／水干彩色2 2 制作2／岩絵具彩色1 3 制作2／岩絵具彩色2 4 制作2／岩絵具彩色3 5 合評会 6 制作3／小下図・草稿 7 制作3／小下図・草稿・小下図研究発表 8 制作3／パネル制作・水張り・骨がき 9 制作3／下塗り 10 制作3／水干彩色1 11 制作3／水干彩色2 12 制作3／岩絵具彩色1 13 制作3／岩絵具彩色2 14 制作3／岩絵具彩色3 15 制作3／岩絵具彩色4 16 合評会 <p style="text-align: right;">人物制作（80号）／草稿 人物制作／草稿・小下図 人物制作／パネル制作・水張り・骨がき 人物制作／下塗り 人物制作／水干彩色1 人物制作／水干彩色2 人物制作／岩絵具彩色1 人物制作／岩絵具彩色2 人物制作／岩絵具彩色3 合評会</p>		
教科書参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、作家の資質として必要な作品分析力と表現力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅰ（立体造形実習Ⅰ）	担当者	今 西 賢
授業概要	形状の模倣だけではなく、その形状が表現に如何に影響を与えるか、自己のイメージを立体作品として具現化できるかを主軸として発想から制作まで一貫した課題制作を行います。 また、これを実現するべく基礎的な立体造形に加えて、使用する素材の可能性を模索、探求します。		
到達目標	自己の発想したテーマや考えを立体造形作品として表現できる。 作品の概要、制作意図等を言語化し、説明できる。 作品制作におけるテーマ立案、計画、制作、プレゼンテーションまでを主体的に取り組むことができる。		
授 業 計 画	<p>前 期</p> 1 線素材による立体表現課題 1-1 2 線素材による立体表現課題 1-2 3 線素材による立体表現課題 1-3、講評 4 線素材による立体表現課題 2-1 5 線素材による立体表現課題 2-2 6 線素材による立体表現課題 2-3、講評 7 線素材による立体表現課題 3-1 8 線素材による立体表現課題 3-2 9 線素材による立体表現課題 3-3、講評 10 面素材による立体表現課題 1-1 11 面素材による立体表現課題 1-2 12 面素材による立体表現課題 1-3、講評 13 面素材による立体表現課題 2-1 14 面素材による立体表現課題 2-2 15 面素材による立体表現課題 2-3、講評 16 前期まとめ <p>後 期</p> 1 構造体の研究と自己表現 1 2 構造体の研究と自己表現 2 3 構造体の研究と自己表現 3 4 構造体の研究と自己表現 4 5 構造体の研究と自己表現 5 6 構造体の研究と自己表現 6 7 構造体の研究と自己表現 7 8 構造体の研究と自己表現 8 9 構造体の研究と自己表現 9 10 構造体の研究と自己表現 10 11 構造体の研究と自己表現 11 12 構造体の研究と自己表現 12 13 構造体の研究と自己表現 13 14 構造体の研究と自己表現 14 15 構造体の研究と自己表現 15 16 構造体の研究と自己表現 16、講評		
教科書 参考書	なし。課題に応じてこちらで資料を用意します。		
評価の 方法	授業に取り組む姿勢、課題作品、および作品のプレゼンテーションで評価します。		
実務経験	セットデザイン、小道具の制作およびイラストの描画等テレビ業界での実務経験を活かしビジュアルデザインの実践的な考え方や制作への取り組み方を指導します。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅱ（洋画制作Ⅸ（古典技法））	担当者	小 笠 美 華
授業概要	<p>テンペラで模写を制作する。支持体製作、地塗り、メディウム、絵具の調合等の実習を通して、絵画の物質的な成り立ちを学ぶ。</p> <p>また、制作過程において技法の特性を理解しながら技術を習得し、技法の歴史を学ぶなかで作家、作品の研究から自身の作品の表現の幅を広げる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・技法の特性と表現が密接に関係していることについて理解する。 ・技法の特性を理解しながら、特性を生かした作品を完成させる。 ・習得した知識や技術を各自の作品制作の展開につなげていける。 		
授 業 計 画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 模写作品選定 2 支持体製作① パネル 3 支持体製作② 前膠 4 支持体製作③ 布張り 5 石膏地塗り① 6 石膏地塗り② 7 地塗り調整、削り、磨き 8 下絵転写 9 デッサン 10 箔下とのご塗り 11 とのご磨き 12 金箔置き① 13 金箔置き② 14 金箔磨き、装飾 15 メディウム作り、下絵 16 描画1 顔、肌到下色 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 描画2 立体感描出 2 描画3 肌色① 3 描画4 肌色② 4 描画5 肌色③ 5 描画6 肌色④ 6 描画7 顔の細部の描出 7 描画8 背景を描く 8 描画9 頭部、毛髪 9 描画10 被り物、衣 10 描画11 装飾品、模様 11 描画12 全体のバランス① 12 描画13 全体のバランス② 13 描画14 黄金背景の装飾① 14 描画15 黄金背景の装飾② 15 描画16 完成へ 16 まとめ、評価 		
教科書 参考書	<p>参考書：『黄金背景テンペラ画の技法』田口安男（著）、『黄金テンペラ技法』紀井利臣（著） 『画家のための処方箋』ロバート・マッセイ（著）山添耕治（訳）</p>		
評価の 方法	<p>授業に取り組む姿勢と、作品による評価。</p>		
実務経験	<p>個展、グループ展等の展覧会での作品発表や画材研究など作家としての活動経験を活かし、画材料の取り扱いや技法の特性を具体的に指導する。</p>		
備考	<p>デリケートな仕事なので、画材料、道具の丁寧な使用と、制作室を使いやすく清潔に保つことを心がけること。</p>		

科目名	専攻実習Ⅱ（日本画制作Ⅶ）	担当者	岡 部 隆 志
授業概要	<p>自己の設定したテーマを表す小品作品の制作を行う。これまでの作品制作の方向を見つめながら、新しいテーマを実験的に模索するとともに、大作作品の表現でつかみづらい全体の構成や小品独自の表現の可能性を考えたい。</p> <p>また、自己の表現に生かせる画材を日本画画材にとどまらず研究したい。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づくイメージを小下図に表現することができる。 ・適切な技法を用いて小品作品を完成させる。 ・日本画材の表現方法を研究し発表することができる。 		
授業計画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 作家作品研究1 3 作家作品研究2 4 作家作品研究3 5 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究1 6 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究2 7 研究発表 8 小品制作（2点）／パネル制作 9 小品制作／草稿 10 小品制作／制作1 11 小品制作／制作2 12 小品制作／制作3・中間合評会 13 小品制作／制作4 14 小品制作／制作5 15 小品制作／制作6 16 合評会 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 画材研究1 2 画材研究2 3 画材研究3 4 画材研究4 5 画材研究合評会 6 制作3／小下図 7 制作3／小下図・草稿 8 制作3／草稿・草稿合評 9 制作3／パネル制作・水張り・転写 10 制作3／水干下塗り 11 制作3／水干彩色1 12 制作3／水干彩色2 13 制作3／岩絵の具彩色1 14 制作3／岩絵の具彩色2 15 制作3／岩絵の具彩色3 16 合評会 		
教科書参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、プロの作家として必要な個人的な表現力、小品制作や習作を含めた作品制作の指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅱ（立体造形実習Ⅱ）	担当者	瀧 下 広 幸
授業概要	<p>授業の中心は立体造形の制作方法(作り方)に注目することで、立体造形の特徴を学びます。「アセンブリング」「モデリング」「カービング」「キャストイング」という4つの制作方法に取り組み、各素材や技法を用いた作品制作によって基本的な技術を習得します。上記の各技法の制作には、それぞれ土、石材、石膏、シリコン、水性樹脂、紙類、布類を用いることで各素材の加工方法の基礎や適した表現についても知識を深めます。粘土によるモデリングは最終的に窯で焼成してテラコッタにするほか、各制作において研磨、着色、塗装などの作品表面の仕上げ方についても学びます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の目標を理解し、制作過程をまとめ記録・説明することができる。 ・各技法について、その加工方法や特徴・特性を知り積極的に取り組むことができる。 ・各素材の性質を理解し、表現効果を探求することができる。 ・素材に合わせた作品の制作プラン・テーマを構築し、計画に沿って作品を作ることができる。 ・完成度のある制作物を提出することができる。 		
授業計画	<p>前 期</p> <p>1 ◇ 課題Ⅰ アセンブリング／素材研究（ダンボール、布）／作品プラン、エスキースの制作</p> <p>2 ・制作①</p> <p>3 ・制作②</p> <p>4 ・制作③</p> <p>5 ・制作④</p> <p>6 ◇ 課題Ⅱ カービング／素材研究（石材）／作品プラン、エスキースの制作</p> <p>7 ・制作①</p> <p>8 ・制作②</p> <p>9 ・制作③</p> <p>10 ・制作④</p> <p>11 ◇ 課題Ⅲ モデリング／素材研究（土）／作品プラン、エスキースの制作</p> <p>12 ・制作①</p> <p>13 ・制作②</p> <p>14 ・制作③</p> <p>15 ・制作④</p> <p>16 ◇ 課題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの合評／前期まとめ</p> <p>後 期</p> <p>1 ◇ 課題Ⅳ キャストイング／素材研究（石膏、水性樹脂）／作品プラン、エスキースの制作</p> <p>2 ・制作①</p> <p>3 ・制作②</p> <p>4 ・制作③</p> <p>5 ・制作④</p> <p>6 ・制作⑤</p> <p>7 ・制作⑥／課題Ⅳ 合評／素材研究まとめ</p> <p>8 ◇ 課題Ⅴ 選択素材／作品プラン、エスキースの制作</p> <p>9 ・制作①</p> <p>10 ・制作②</p> <p>11 ・制作③</p> <p>12 ・制作④</p> <p>13 ・制作⑤</p> <p>14 ・制作⑥</p> <p>15 ・制作⑦</p> <p>16 ◇ 課題Ⅴ 合評／後期まとめ</p>		
教科書参考書	<p>課題に応じて、プリント、ワークシートなどの資料を提示・配布します。</p>		
評価の方法	<p>評価①:課題作品の内容(発想や制作過程、プレゼンテーションを含む)</p> <p>評価②:発想や制作のプロセスなどの理解度、制作物の完成度、取り組み姿勢</p> <p>以上の評価①②を合わせて総合的に評価します。</p>		
実務経験	<p>高等学校美術教諭としてのティーチングスキルと美術作家としての活動経験を生かして、立体造形の基本的な技術や知識、発想力や提案力を高める力を指導します。</p>		
備考	<p>①各回の授業には描画用具(H～3B)とクロッキー帳を持参してください。(デジタルツールは不可)その他の制作に使用する用具類は日程の中で案内をします。</p> <p>②実習に適した服装、実習の準備や後片付けなど励行してください。</p> <p>授業計画の授業回数は、課題の進行状況により調整する場合があります。</p>		

科目名	専攻演習Ⅱ（油彩制作Ⅰ）	担当者	平田 泰延・小笠 美華
授業概要	<p>前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。</p> <p>後期は自身でテーマを選択し、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていけるよう技術と内容を指導する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。 ・社会における絵画の現在について考えることが出来る。 ・制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っている。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 風景 油彩 10号～15号 3 人体 女性 立ちポーズ デッサン 4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号 5 人体 女性 立ちポーズ 6 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号① 8 講評会 9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号② 10 人体 男性 動作 デッサン 11 人体 二人 組みポーズ デッサン 12 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号① 13 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号② 14 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号③ 15 合同講評会 16 自画像 10号 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作につながる作品 30号程度 2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ① 3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ② 4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ③ 5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上 6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習① 9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習② 10 制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上 11 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開 12 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習① 13 合同講評会 14 制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習② 15 制作Ⅰ、Ⅱ 完成 16 審査 		
教科書参考書	参考作品、作家、書籍を随時紹介。		
評価の方法	授業に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。		
備考			

科目名	専攻演習Ⅱ（日本画描写Ⅳ・Ⅴ）	担当者	石股 昭・吉岡 佐知
授業概要	自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を高めてほしい。 また、日本画制作と連動して画材研究や、特に岩絵具の持つ独特の美しさを生かした表現技法を研究する。		
到達目標	・題材となる写生作品を完成させる。 ・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。 ・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。		
授業計画	<p>前期</p> 1 制作1／オリエンテーション・小下図 制作1／題材研究発表 2 制作1／小下図・草稿 3 制作1／パネル制作・水張り・骨がき 明日香村写生1 4 制作1／下塗り 明日香村写生2 5 制作1／水干彩色1 明日香村写生3 6 制作1／水干彩色2 写生合評会・作品展 7 制作1／岩絵具彩色1 8 制作1／岩絵具彩色2 9 制作1／岩絵具彩色3 制作2／取材（写生）とテーマの研究1 10 合評会 制作2／取材（写生）とテーマの研究2 11 制作2／小下図・草稿 制作2／題材研究発表 12 制作2／小下図・草稿・草稿合評 13 制作2／パネル制作・水張り・骨がき 14 制作2／下塗り 15 制作2／水干彩色1 16 合評会 <p>後期</p> 1 制作2／水干彩色2 2 制作2／岩絵具彩色1 制作3／取材（写生）とテーマの研究1 3 制作2／岩絵具彩色2 制作3／取材（写生）とテーマの研究2 4 制作2／岩絵具彩色3 制作3／取材（写生）とテーマの研究3 5 合評会 制作3／取材（写生）とテーマの研究4 6 制作3／小下図・草稿 制作3／題材研究発表 7 制作3／小下図・草稿・草稿合評 8 制作3／パネル制作・水張り・骨がき 9 制作3／下塗り 10 制作3／水干彩色1 11 制作3／水干彩色2 12 制作3／岩絵具彩色1 13 制作3／岩絵具彩色2 14 制作3／岩絵具彩色3 学外講師による特別講義 15 制作3／岩絵具彩色4 16 合評会		
教科書参考書	美術全集		
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	専攻演習Ⅱ（立体造形演習Ⅱ）	担当者	今 西 賢
授業概要	専攻演習Ⅰで習得した基礎的な立体造形の知識、技術を用いてより実践的な制作課題に取り組みます。テーマに対して抽象、具象問わず自己の発想を造形として表現します。		
到達目標	定めたテーマに対してデザイン（伝わる作品）としての造形を計画、実践できる。 素材の持つ可能性を理解し制御、応用することができる。 作品の概要、制作意図等を言語化し、説明できる。		
授 業 計 画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学位試験持ち込み作品の企画、研究 1 2 学位試験持ち込み作品の企画、研究 2 3 学位試験持ち込み作品の企画、研究 3 4 学位試験持ち込み作品の企画、研究 4 5 学位試験持ち込み作品の企画、研究 5 6 学位試験持ち込み作品の企画、研究 6 7 学位試験持ち込み作品の企画、研究 7 8 学位試験持ち込み作品の企画、研究 8 9 学位試験持ち込み作品の企画、研究 9 10 学位試験持ち込み作品の企画、研究 10 11 学位試験持ち込み作品の企画、研究 11 12 学位試験持ち込み作品の企画、研究 12 13 学位試験持ち込み作品の企画、研究 13 14 学位試験持ち込み作品の企画、研究 14 15 学位試験持ち込み作品の企画、研究 15 16 学位試験持ち込み作品の企画、研究 16、講評 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 構造体の研究と自己表現 1 2 構造体の研究と自己表現 2 3 構造体の研究と自己表現 3 4 構造体の研究と自己表現 4 5 構造体の研究と自己表現 5 6 構造体の研究と自己表現 6 7 構造体の研究と自己表現 7 8 構造体の研究と自己表現 8 9 構造体の研究と自己表現 9 10 構造体の研究と自己表現 10 11 構造体の研究と自己表現 11 12 構造体の研究と自己表現 12 13 構造体の研究と自己表現 13 14 構造体の研究と自己表現 14 15 構造体の研究と自己表現 15 16 構造体の研究と自己表現 16、講評 		
教科書 参考書	なし。課題に応じてこちらで資料を用意します。		
評価の 方法	授業に取り組む姿勢、課題作品、および作品のプレゼンテーションで評価します。		
実務経験	セットデザイン、小道具の制作およびイラストの描画等テレビ業界での実務経験を活かしビジュアルデザインの実践的な考え方や制作への取り組み方を指導します。		
備考			

科目名	専攻演習Ⅲ (油彩制作Ⅶ・油彩制作Ⅷ (デッサン))		担当者	小 笠 美 華
授業概要	<p>油彩制作Ⅶ：前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。後期は自身でテーマを選択し、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。</p> <p>油彩制作Ⅷ (デッサン)：細密デッサン、石膏デッサン、静物デッサンで観察力と描出力を高める。またスケッチ、ドローイングを重ねることで自身の視点の発見を試みる。学年末には課題から得たことを基にデッサン作品を制作し絵画表現の可能性を広げる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象に興味、関心を持って観察し、自身の着眼点を描き出すことができる。 ・対象に適した表現を試みることが出来る。 ・絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。 ・社会における絵画の現在について考えることが出来る。 			
授業計画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 風景 油彩 10号 3 人体 女性 立ちポーズ デッサン 4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号 5 人体 女性 立ちポーズ 6 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号① 8 講評会 9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号② 10 人体 男性 動作 デッサン 11 人体 二人 組みポーズ デッサン 12 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号① 13 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号② 14 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号③ 15 合同講評会 16 自画像 10号 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作につながる作品 30号程度 2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ① 3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ② 4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ③ 5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上 6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習① 9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習② 10 制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上 11 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開 12 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習① 13 合同講評会 14 制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習② 15 制作Ⅰ、Ⅱ 完成 16 審査 	<ol style="list-style-type: none"> 1 スケジュール説明、デッサンについて 2 課題① 細密に描く 昆虫、植物など① 3 課題① 細密に描く 昆虫、植物など② 4 課題① 細密に描く 昆虫、植物など③ 5 講評 6 課題② 「静物」① 7 課題② 「静物」② 8 課題② 「静物」③ 9 課題② 「静物」④ 10 課題② 「静物」⑤ 11 講評 12 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン① 13 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン② 14 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン③ 15 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン④ 16 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑤ <ol style="list-style-type: none"> 1 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑥ 2 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑦ 3 課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑧ 4 講評 5 課題④ 「イメージの集積」① 6 課題④ 「イメージの集積」② 7 課題④ 「イメージの集積」③ 8 課題④ 「イメージの集積」④ 9 課題④ 「イメージの集積」⑤ 10 講評 11 課題⑤デッサン作品制作① 12 課題⑤デッサン作品制作② 13 課題⑤デッサン作品制作③ 14 課題⑤デッサン作品制作④ 15 課題⑤デッサン作品制作⑤ 16 講評 		
教科書参考書	随時紹介。			
評価の方法	授業に取り組む姿勢と、作品による評価。			
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。			
備考				

科目名	専攻演習Ⅲ（日本画描写Ⅶ・Ⅷ）	担当者	福井 悠・石股 昭																																																																
授業概要	自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を高めてほしい。 また、日本画制作と連動して画材研究や、特に岩絵具の持つ独特の美しさを生かした表現技法を研究する。																																																																		
到達目標	・題材となる写生作品を完成させる。 ・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。 ・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。																																																																		
授業計画	<p>前期</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 制作1／オリエンテーション・小下図</td> <td style="width: 50%;">制作1／題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>2 制作1／小下図・草稿</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 制作1／パネル制作・水張り・骨がき</td> <td>明日香村写生1</td> </tr> <tr> <td>4 制作1／下塗り</td> <td>明日香村写生2</td> </tr> <tr> <td>5 制作1／水干彩色1</td> <td>明日香村写生3</td> </tr> <tr> <td>6 制作1／水干彩色2</td> <td>写生合評会・作品展</td> </tr> <tr> <td>7 制作1／岩絵具彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 制作1／岩絵具彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 制作1／岩絵具彩色3</td> <td>制作2／取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td>10 合評会</td> <td>制作2／取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td>11 制作2／小下図・草稿</td> <td>制作2／題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>12 制作2／小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 制作2／パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 制作2／下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 制作2／水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 合評会</td> <td></td> </tr> </table> <p>後期</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 制作2／水干彩色2</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>2 制作2／岩絵具彩色1</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td>3 制作2／岩絵具彩色2</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td>4 制作2／岩絵具彩色3</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究3</td> </tr> <tr> <td>5 合評会</td> <td>制作3／取材（写生）とテーマの研究4</td> </tr> <tr> <td>6 制作3／小下図・草稿</td> <td>制作3／題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>7 制作3／小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 制作3／パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 制作3／下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 制作3／水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 制作3／水干彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 制作3／岩絵具彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 制作3／岩絵具彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 制作3／岩絵具彩色3</td> <td>学外講師による特別講義</td> </tr> <tr> <td>15 制作3／岩絵具彩色4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 合評会</td> <td></td> </tr> </table>			1 制作1／オリエンテーション・小下図	制作1／題材研究発表	2 制作1／小下図・草稿		3 制作1／パネル制作・水張り・骨がき	明日香村写生1	4 制作1／下塗り	明日香村写生2	5 制作1／水干彩色1	明日香村写生3	6 制作1／水干彩色2	写生合評会・作品展	7 制作1／岩絵具彩色1		8 制作1／岩絵具彩色2		9 制作1／岩絵具彩色3	制作2／取材（写生）とテーマの研究1	10 合評会	制作2／取材（写生）とテーマの研究2	11 制作2／小下図・草稿	制作2／題材研究発表	12 制作2／小下図・草稿・草稿合評		13 制作2／パネル制作・水張り・骨がき		14 制作2／下塗り		15 制作2／水干彩色1		16 合評会		1 制作2／水干彩色2		2 制作2／岩絵具彩色1	制作3／取材（写生）とテーマの研究1	3 制作2／岩絵具彩色2	制作3／取材（写生）とテーマの研究2	4 制作2／岩絵具彩色3	制作3／取材（写生）とテーマの研究3	5 合評会	制作3／取材（写生）とテーマの研究4	6 制作3／小下図・草稿	制作3／題材研究発表	7 制作3／小下図・草稿・草稿合評		8 制作3／パネル制作・水張り・骨がき		9 制作3／下塗り		10 制作3／水干彩色1		11 制作3／水干彩色2		12 制作3／岩絵具彩色1		13 制作3／岩絵具彩色2		14 制作3／岩絵具彩色3	学外講師による特別講義	15 制作3／岩絵具彩色4		16 合評会	
1 制作1／オリエンテーション・小下図	制作1／題材研究発表																																																																		
2 制作1／小下図・草稿																																																																			
3 制作1／パネル制作・水張り・骨がき	明日香村写生1																																																																		
4 制作1／下塗り	明日香村写生2																																																																		
5 制作1／水干彩色1	明日香村写生3																																																																		
6 制作1／水干彩色2	写生合評会・作品展																																																																		
7 制作1／岩絵具彩色1																																																																			
8 制作1／岩絵具彩色2																																																																			
9 制作1／岩絵具彩色3	制作2／取材（写生）とテーマの研究1																																																																		
10 合評会	制作2／取材（写生）とテーマの研究2																																																																		
11 制作2／小下図・草稿	制作2／題材研究発表																																																																		
12 制作2／小下図・草稿・草稿合評																																																																			
13 制作2／パネル制作・水張り・骨がき																																																																			
14 制作2／下塗り																																																																			
15 制作2／水干彩色1																																																																			
16 合評会																																																																			
1 制作2／水干彩色2																																																																			
2 制作2／岩絵具彩色1	制作3／取材（写生）とテーマの研究1																																																																		
3 制作2／岩絵具彩色2	制作3／取材（写生）とテーマの研究2																																																																		
4 制作2／岩絵具彩色3	制作3／取材（写生）とテーマの研究3																																																																		
5 合評会	制作3／取材（写生）とテーマの研究4																																																																		
6 制作3／小下図・草稿	制作3／題材研究発表																																																																		
7 制作3／小下図・草稿・草稿合評																																																																			
8 制作3／パネル制作・水張り・骨がき																																																																			
9 制作3／下塗り																																																																			
10 制作3／水干彩色1																																																																			
11 制作3／水干彩色2																																																																			
12 制作3／岩絵具彩色1																																																																			
13 制作3／岩絵具彩色2																																																																			
14 制作3／岩絵具彩色3	学外講師による特別講義																																																																		
15 制作3／岩絵具彩色4																																																																			
16 合評会																																																																			
教科書参考書	美術全集																																																																		
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。																																																																		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。																																																																		
備考																																																																			

科目名	専攻演習Ⅲ（立体造形演習Ⅲ）	担当者	北 浦 雄 大
授業概要	<p>「展示場所」や「モチーフ」、「素材」という三つの観点から、身の回りの物事と作品の制作・展示との間に関連性を見出すことで、立体作品を構成する要素を多角的に捉える視点を養います。</p> <p>「展示場所」：インスタレーションについて学び、学内の各所で作品の展示方法や演出、効果について考え、実践します。「モチーフ」：身の回りから造形するモチーフを選び出し、写実とデフォルメの二通りの表現をすることで、形体の理解や捉え方の幅を広げます。「素材」：身の回りにある素材を造形に取り込むことで、素材の持つイメージや象徴性、対比といった要素について学びます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ インスタレーションについて理解し、ルーツや歴史を説明することができる。 ・ モチーフの形体を的確に捉え、その特徴に応じて素材を加工することができる。 ・ 立体作品を構成する要素を多角的に捉え、作品の制作意図を説明することができる。 		
授業計画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ◇ インスタレーションについて／展示場所、展示方法の検討と実践① 2 ・ 展示場所、展示方法の検討と実践② 3 ・ 展示場所、展示方法の検討と実践③ 4 ◇ 展示台について／展示台の検討と制作① 5 ・ 展示台の検討と制作② 6 ・ 展示台の検討と制作③ 7 ◇ 課題Ⅰ 写実とデフォルメ／素材研究（粘土、石材） 8 ・ 作品プラン、エスキースの制作／制作① 9 ・ 制作② 10 ・ 制作③ 11 ・ 制作④ 12 ・ 制作⑤ 13 ・ 制作⑥ 14 ・ 制作⑦ 15 ・ 課題Ⅰ 合評 16 ◇ 前期まとめ <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ◇ 素材研究（石膏、水性樹脂、シリコン、ガラス、合金、他）① 2 ・ 素材研究（石膏、水性樹脂、シリコン、ガラス、合金、他）② 3 ・ 素材研究（石膏、水性樹脂、シリコン、ガラス、合金、他）③ 4 ・ 素材研究（石膏、水性樹脂、シリコン、ガラス、合金、他）④ 5 ・ 素材研究（石膏、水性樹脂、シリコン、ガラス、合金、他）⑤ 6 ・ 素材研究（石膏、水性樹脂、シリコン、ガラス、合金、他）⑥ 7 ◇ 課題Ⅱ ミクストメディア／作品プラン、エスキースの制作①／素材研究（各種素材）① 8 ・ 作品プラン、エスキースの制作②／素材研究（各種素材）② 9 ・ 制作① 10 ・ 制作② 11 ・ 制作③ 12 ・ 制作④ 13 ・ 制作⑤ 14 ・ 制作⑥ 15 ・ 課題Ⅱ 合評 16 ◇ 後期まとめ 		
教科書参考書	適宜、プリントや資料を配布します。		
評価の方法	発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などを総合的に評価します。		
実務経験	大学や美術系高校、美大受験予備校の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導します。		
備考	初回授業から制作を行います。実習に適した服装、作業着やツナギ、安全靴等の着用をお願いします。他の授業でも使用する教室なので、授業終了時の原状復帰、掃除・片づけを必ずしましょう。		

科目名	専攻実習Ⅲ（油彩制作Ⅲ）	担当者	片野 まん
授業概要	<p>前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。 後期は自身でテーマを選択し、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。 担当教員が個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていきけるよう技術と内容を指導する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。 ・ 社会における絵画の現在について考えることが出来る。 ・ 制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っている。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 風景 油彩 10号 3 人体 女性 立ちポーズ デッサン 4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号 5 人体 女性 立ちポーズ 6 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号① 8 講評会 9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号② 10 人体 男性 動作 デッサン 11 人体 二人 組みポーズ デッサン 12 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号① 13 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号② 14 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号③ 15 合同講評会 16 自画像 10号 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作につながる作品 30号程度 2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ① 3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ② 4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ③ 5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上 6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習① 9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習② 10 制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上 11 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開 12 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習① 13 合同講評会 14 制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習② 15 制作Ⅰ、Ⅱ 完成 16 審査 		
教科書参考書	<p>参考作品、作家、書籍を随時紹介。</p>		
評価の方法	<p>授業に取り組む姿勢と、作品による評価。</p>		
実務経験	<p>個展、グループ展等の展覧会での作品発表や受賞歴など作家としての活動経験を活かし、描く対象を観察、把握して絵画表現していくことを具体的に指導する。</p>		
備考			

科目名	専攻実習Ⅲ（日本画制作Ⅷ・Ⅸ）	担当者	辻野 宗一・広岡 真彩彦
授業概要	<p>自己の設定したテーマを造形的な観点から吟味させ、そのテーマに基づく最も適切なモチーフを選定し独自の表現へと発展させる。</p> <p>自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の段階で、制作テーマの選定、画面の構成、色調等、今までに学習した表現技法を最大限駆使して、意図する内容を最も効果的に表現できているかをそれぞれ厳しく追求し、高度な表現へと深まるよう適切な指導を行い制作する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づく最も適切な表現を小下図を通して研究する。 ・表現技法や材料を生かした作品を完成させる。 ・自らの作品について客観的に理解し述べるができる。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作1／オリエンテーション・小下図 2 制作1／小下図・草稿・小下図研究発表 3 制作1／パネル制作・水張り・骨がき 4 制作1／下塗り 5 制作1／水干彩色1 6 制作1／水干彩色2 7 制作1／岩絵具彩色1 8 制作1／岩絵具彩色2 9 制作1／岩絵具彩色3 10 合評会 11 制作2／小下図・草稿 12 制作2／小下図・草稿・小下図研究発表 13 制作2／パネル制作・水張り・骨がき 14 制作2／下塗り 15 制作2／水干彩色1 16 合評会 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作2／水干彩色2 2 制作2／岩絵具彩色1 3 制作2／岩絵具彩色2 4 制作2／岩絵具彩色3 5 合評会 6 制作3／小下図・草稿 7 制作3／小下図・草稿・小下図研究発表 8 制作3／パネル制作・水張り・骨がき 9 制作3／下塗り 10 制作3／水干彩色1 11 制作3／水干彩色2 12 制作3／岩絵具彩色1 13 制作3／岩絵具彩色2 14 制作3／岩絵具彩色3 15 制作3／岩絵具彩色4 16 合評会 <p>人物制作（80号）／草稿 人物制作／草稿・小下図 人物制作／パネル制作・水張り・骨がき 人物制作／下塗り 人物制作／水干彩色1 人物制作／水干彩色2 人物制作／岩絵具彩色1 人物制作／岩絵具彩色2 人物制作／岩絵具彩色3 合評会</p>		
教科書 参考書			
評価の 方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、作家の資質として必要な作品分析力と表現力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅲ（立体造形実習Ⅲ）	担当者	今 西 賢
授業概要	専攻実習Ⅰ、Ⅱで習得した立体造形の知識や技術を駆使してより主体的な制作を実践します。そのため学生自身での研究課題の設定、プランニング、制作、プレゼンテーションを行います。		
到達目標	各種素材による造形表現を駆使し、制作に応用することができる。 作品制作におけるテーマ立案、計画、制作、プレゼンテーションまでを主体的に取り組むことができる。 作品制作をプロジェクトとして捉え、その記録を行うことができる。		
授 業 計 画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学位試験持ち込み作品の企画、制作 1 2 学位試験持ち込み作品の企画、制作 2 3 学位試験持ち込み作品の企画、制作 3 4 学位試験持ち込み作品の企画、制作 4 5 学位試験持ち込み作品の企画、制作 5 6 学位試験持ち込み作品の企画、制作 6 7 学位試験持ち込み作品の企画、制作 7 8 学位試験持ち込み作品の企画、制作 8 9 学位試験持ち込み作品の企画、制作 9 10 学位試験持ち込み作品の企画、制作 10 11 学位試験持ち込み作品の企画、制作 11 12 学位試験持ち込み作品の企画、制作 12 13 学位試験持ち込み作品の企画、制作 13 14 学位試験持ち込み作品の企画、制作 14 15 学位試験持ち込み作品の企画、制作 15 16 学位試験持ち込み作品の企画、制作 16 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作ノート作成 1 2 制作ノート作成 2 3 制作ノート作成 3 4 制作ノート作成 4 5 制作ノート作成 5 6 講評 7 無形物をテーマとした立体造形課題 1 8 無形物をテーマとした立体造形課題 2 9 無形物をテーマとした立体造形課題 3 10 無形物をテーマとした立体造形課題 4 11 無形物をテーマとした立体造形課題 5 12 無形物をテーマとした立体造形課題 6 13 無形物をテーマとした立体造形課題 7 14 無形物をテーマとした立体造形課題 8 15 無形物をテーマとした立体造形課題 9 16 無形物をテーマとした立体造形課題 10、講評 		
教科書 参考書	なし。課題に応じてこちらで資料を用意します。		
評価の 方法	授業に取り組む姿勢、課題作品、および作品のプレゼンテーションで評価します。		
実務経験	セットデザイン、小道具の制作およびイラストの描画等テレビ業界での実務経験を活かしビジュアルデザインの実践的な考え方や制作への取り組み方を指導します。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅳ（油彩制作Ⅸ（古典技法））	担当者	小 笠 美 華
授業概要	<p>テンペラ画で模写を制作する。支持体製作、地塗り、メディウム、絵具の調合等の実習を通して、絵画の物質的な成り立ちを学ぶ。</p> <p>また、制作過程において、技法の特性を理解しながら技術を習得し、技法の歴史を学ぶなかで作家、作品の研究から自身の作品の表現の幅を広げる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・技法の特性と表現が密接に関係していることについて理解する。 ・技法の特性を理解しながら、特性を生かした作品を完成させる。 ・習得した知識や技術を各自の作品制作の展開につなげていける。 		
授 業 計 画	<p>テンペラ画</p> <p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 模写作品選定 2 支持体製作① パネル 3 支持体製作② 前膠 4 支持体製作③ 布張り 5 石膏地塗り① 6 石膏地塗り② 7 地塗り調整、削り、磨き 8 下絵転写 9 デッサン 10 箔下とこの塗り 11 とこの磨き 12 金箔置き① 13 金箔置き② 14 金箔磨き、装飾 15 メディウム作り、下絵 16 描画1 顔、肌の下色 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 描画2 立体感描出 2 描画3 肌色① 3 描画4 肌色② 4 描画5 肌色③ 5 描画6 肌色④ 6 描画7 顔の細部の描出 7 描画8 背景を描く 8 描画9 頭部、毛髪 9 描画10 被り物、衣 10 描画11 装飾品、模様 11 描画12 全体のバランス① 12 描画13 全体のバランス② 13 描画14 黄金背景の装飾① 14 描画15 黄金背景の装飾② 15 描画16 完成へ 16 16 まとめ、評価 		
教科書 参考書	<p>参考書：『黄金背景テンペラ画の技法』田口安男（著）、『黄金テンペラ技法』紀井利臣（著） 『画家のための処方箋』ロバート・マッセイ（著）山添耕治（訳）</p>		
評価の 方法	<p>授業に取り組む姿勢と、作品による評価。</p>		
実務経験	<p>個展、グループ展等の展覧会での作品発表や画材研究など作家としての活動経験を活かし、画材料の取り扱いや技法の特性を具体的に指導する。</p>		
備考	<p>デリケートな仕事なので、画材料、道具の丁寧な使用と、制作室を使いやすく清潔に保つことを心がけること。</p>		

科目名	専攻実習Ⅳ（日本画制作Ⅻ・ⅩⅢ）	担当者	辻野 宗一・吉岡 佐知
授業概要	<p>自己の設定したテーマを表す小品作品の制作を行う。これまでの作品制作の方向を見つめながら、新しいテーマを実験的に模索するとともに、大作作品の表現でつかみづらい全体の構成や小品独自の表現の可能性を考えたい。</p> <p>また、自己の表現に生かせる画材を日本画画材にとどまらず研究したい。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づくイメージを小下図に表現することができる。 ・適切な技法を用いて小品作品を完成させる。 ・日本画材の表現方法を研究し発表することができる。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 作家作品研究1 3 作家作品研究2 4 作家作品研究3 5 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究1 6 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究2 7 研究発表 8 小品制作（2点）／パネル制作 9 小品制作／草稿 10 小品制作／制作1 11 小品制作／制作2 12 小品制作／制作3・中間合評会 13 小品制作／制作4 14 小品制作／制作5 15 小品制作／制作6 16 合評会 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 画材研究1 2 画材研究2 3 画材研究3 4 画材研究4 5 画材研究合評会 6 制作3／小下図 7 制作3／小下図・草稿 8 制作3／草稿・草稿合評 9 制作3／パネル制作・水張り・転写 10 制作3／水干下塗り 11 制作3／水干彩色1 12 制作3／水干彩色2 13 制作3／岩絵の具彩色1 14 制作3／岩絵の具彩色2 15 制作3／岩絵の具彩色3 16 合評会 		
教科書 参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、プロの作家として必要な個人的な表現力、小品制作や習作を含めた作品制作の指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅳ（立体造形実習Ⅳ）	担当者	北 浦 雄 大
授業概要	専攻演習、及び専攻実習で学んだ立体造形の知識や技能をもとに、各自が設定したテーマに応じて立体表現を追求します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して追求できる題材やテーマを設定することができる。 ・題材やテーマ、興味関心をもとに、素材や技法を選択し、作品プランを構築することができる。 ・選択した素材や技法を適切に扱い、テーマを表現した作品を制作することができる。 		
授 業 計 画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> ◇ 課題Ⅰ テーマをもとにした制作A/作品プラン、エスキースの制作① ・素材、空間の研究①、作品プラン、エスキースの制作② ・素材、空間の研究②、作品プラン、エスキースの制作③ ・素材、空間の研究③、作品プラン、エスキースの制作④ ・作品プランチェック ・制作① ・制作② ・制作③ ・制作④ ・中間報告 ・制作⑤ ・制作⑥ ・制作⑦ ・制作⑧ ・課題Ⅰ 合評 ◇ 前期まとめ <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> ◇ 課題Ⅱ テーマをもとにした制作B/作品プラン、エスキースの制作① ・作品プラン、エスキースの制作②/素材研究 ・作品プランチェック ・制作① ・制作② ・制作③ ・制作④ ・制作⑤ ・制作⑥ ・制作⑦ ・制作⑧ ・制作⑨ ・制作⑩ ・課題Ⅱ 合評 ◇ 後期まとめ 		
教科書 参考書	適宜、プリントや資料を配布します。		
評価の 方法	発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などを総合的に評価します。		
実務経験	大学や美術系高校、美大受験予備校の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導します。		
備考	初回授業から制作を行います。実習に適した服装、作業着やツナギ、安全靴等の着用をお願いします。他の授業でも使用する教室なので、授業終了時の原状復帰、掃除・片づけを必ずしましょう。		

D群科目 1回生 ■実技演習・実技実習
1年次 演習 6単位 通年

科目名	実技演習 I		担当者	平田 泰延・福井 悠・西岡 幸二 惣田 司・門田 綾音・和田 誠之
授業概要	表現のモチーフとなる対象を正確に観察することができ、かつ理解を深めることで自己の表現が十分に発揮できるようにする。			
到達目標	専門的な思考法と教養を修得して、自己の芸術的表現ができる能力や姿勢が身についている。			
授 業 計 画	洋画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション 2回 風景 油彩 10号～15号 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30号 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 10回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ 油彩 30号 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2～4回 制作のためのエスキース I、II ①～③ 5回～6回 制作I 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7回 講評会 8～9回 作品としての制作の学習①② 10～12回 制作II 油彩 50号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13回 合同講評会 14回 制作II 作品としての制作の学習 15回 完成 16回 審査	
	日本画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション・小下図 2回 小下図・草稿 3回 パネル制作・水張り・骨がき 4回 下塗り 5・6回 水干彩色 1.2 7～9回 岩絵具彩色 1～3 10回 合評会 11回 小下図・草稿 12回 草稿・草稿合評 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14回 下塗り 15回 水干彩色 1 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 水干彩色 2 2～4回 岩絵具彩色 1～3 5回 合評会 6回 小下図・草稿 7回 小下図・草稿・草稿合評 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9回 下塗り 10・11回 水干彩色 1.2 12～15回 岩絵具彩色 1～4 学外講師特別講義 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 映像制作基礎 2～4回 3Dモデリング①②③ 5.6回 映像コンテ作成①② 7.8回 撮影準備①② 9～11回 撮影①②③ 12.13回 編集①② 14.15回 録音ミキシング①② 16回 作品講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 絵本の構成 2.3回 絵本のストーリー制作①② 4.5回 絵本のキャラクター制作①② 6～8回 編集①②③ 9.10回 音楽、効果音①② 11回 作品講評 12～15回 制作指導①②③④ 16回 まとめ	

	陶芸	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ 各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ 抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ 用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ 基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～2回 表現技法Ⅰ 素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ 釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ 焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
授業計画	染織	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	クラフト(工芸)デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 課題1 学外発表に向けての自主研究テーマ課題 杓目金(酒器)導入 2回 デザイン研究・デザインチェック 3回 プレゼンシート作成 4～7回 制作①～④ 8回 まとめ・講評 9回 課題2 研究テーマ課題 鉄の加工/導入と機械工具等の使用説明 10回 デザイン研究・デザインチェック 11回 プレゼンシート作成 12～15回 制作①～④ 16回 展示研究・講評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 課題3 自主研究テーマ課題1 鍛金(変形絞り)ノ挿入 2回 デザイン研究・デザインチェック 3回 プレゼンシート作成 4回 制作(金槌作り・当て金作り) 5回 油年度によるモデリング 6～9回 制作①～④ 10回 経過チェック 11～14回 制作⑤～⑧ 15回 組み立て、着色 16回 展示研究・講評
教科書参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の方法	作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習Ⅱ		担当者	廣田 美乃・松浦 直子・西岡 幸二 惣田 司・新田 恭子・藤本 奈穂子	
授 業 概	身近にある様々な造形メディアを研究することにより、自己の表現領域が広がり、表現形態も多様化するようになる。				
目 到 標 達	造形表現領域における多様なメディアを認知して、それぞれの特性を生かすことができる。				
授 業 計 画	洋 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 オリエンテーション 2 回 風景 油彩 10 号～15 号 3～5 回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30 号 6 回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30 号 8 回 講評会 9 回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30 号 10 回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11 回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14 回 人体 二人 組ポーズ 油彩 30 号 15 回 合同講評会 16 回 自画像 10 号	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 制作につながる作品 30 号程度 2～4 回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ①～③ 5 回～6 回 制作Ⅰ 油彩 100 号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7 回 講評会 8～9 回 作品としての制作の学習①② 10～12 回 制作Ⅱ 油彩 50 号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13 回 合同講評会 14 回 制作Ⅱ 作品としての制作の学習 15 回 完成 16 回 審査		
	日 本 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 授業ガイダンス・図版による作品鑑賞と模写制作 1 のための作品選び 2 回 制作手順確認、制作準備 3～5 回 模写 1-1～3 6 回 学外研修(古画鑑賞 1) 7～15 回 模写 1-4～12 16 回 作品裏打ち	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 模写制作 2 のための作品選び・制作手順確認、制作準備 2～4 回 模写 2-1～3 5 回 学外研修(古画鑑賞 2) 6～12 回 模写制作 2-4～10 13 回 模写制作 2-11 展示計画 14 回 模写制作 2-12 15～16 回 作品裏打ちと展示準備 1.2		
	デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 映像制作基礎 2～4 回 3D モデリング①②③ 5・6 回 映像コンテ作成①② 7・8 回 撮影準備①② 9～11 回 撮影①②③ 12・13 回 編集①② 14・15 回 録音ミキシング①② 16 回 作品講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 絵本の構成 2・3 回 絵本のストーリー制作①② 4・5 回 絵本のキャラクター制作①② 6～8 回 編集①②③ 9・10 回 音楽、効果音①② 11 回 作品講評 12～15 回 制作指導①②③④ 16 回 まとめ		

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主制作Ⅰ 各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9 回 自主制作Ⅱ 抽象-オブジェ-による制作①～④ 10～12 回 自主制作Ⅲ 用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16 回 自主制作Ⅳ 基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2 回 表現技法Ⅰ 素地による表現①② 3～4 回 表現技法Ⅱ 釉薬による表現①② 5～6 回 表現技法Ⅲ 焼成による表現①② 7～10 回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15 回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16 回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ ①～④ 11～15 回 自由制作Ⅲ ①～④ 16 回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 ネックピース制作/導入とコンテンポラリージュエリーについての概要説明 2・3 回 デザインサーチ①②/分析とまとめ 4 回 コンセプト立案/構想の展開 5 回 形状検討 素材検討 6・7 回 実験と試作①② 8～14 回 制作①～⑦ 15 回 展示プランニング及び実施 16 回 講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1・2 回 デザインリサーチ①②/分析とまとめ 3 回 コンセプト立案/構想の展開 4 回 形状検討 素材研究 5・6 回 実験と試作①② 7～14 回 制作①～⑧ 15 回 展示プランニング及び実施 16 回 講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、演習課題やテーマへの取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習Ⅲ		担当者	廣田 美乃・松浦 直子・村松 佳優 清水 篤・近藤 卓浪・岡本 綾子
授業概要	専攻するメディアの特性と可能性を追求して、自己表現の支持体として修得できるようにする。			
目到達	洗練された高度な技術・技法を修得して、表現支持体を自在に活用できる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 制作①エスキース①～③ 5～7回 制作①油彩 50号以上1点以上 ①～③ 自分らしい表現への展開 8回 講評会 9～14回 制作① ①～⑥ 作品としての制作の学習 15回 合同講評会 16回 制作①完成へ	<p style="text-align: center;">後期</p> 1・2回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ ①② 3回 ブランチェック 4回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 5回～6回 制作Ⅰ①油彩100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7回 講評会 8～10回 制作Ⅰ②③ 11～12回 制作Ⅱ油彩50号以上一点以上① 作品としての制作の学習 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ② 15回 完成 16回 審査	
	日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 授業ガイダンス・図版による作品鑑賞と 模写制作1のための作品選び 2回 制作手順確認、制作準備 3～5回 模写1-1～3 6回 学外研修(古画鑑賞1) 7～15回 模写1-4～12 16回 作品裏打ち	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 模写制作2のための作品選び・制作手順 確認、制作準備 2～4回 模写2-1～3 5回 学外研修(古画鑑賞2) 6～12回 模写制作2-4～10 13回 模写制作2-11 展示計画 14回 模写制作2-12 15～16回 作品裏打ちと展示準備1.2	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 ガイダンス 2～4回 写真・撮影基礎①②③ 5～8回 撮影実習1 (モチーフ撮影) ①②③④ 9～15回 撮影実習2 (マクロ・ミクロ) ①～⑦ 16回 前期まとめ	<p style="text-align: center;">後期</p> 1・2回 撮影実習3 (作品講評) ①② 3～5回 撮影実習4 (モチーフ撮影2) ①②③ 6～14回 撮影実習5 (テーマ設定からの作品制作) ①～⑨ 15回 発表 16回 後期まとめ	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9 回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12 回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16 回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2 回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4 回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6 回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10 回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15 回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16 回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15 回 自由制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 概要説明/デザイン研究/素材選び/デザインチェック/三面図の製図① 2 回 デザイン研究/素材選び/デザインチェック/三面図の製図② 3～7 回 タガネ制作①～⑤ 8～13 回 本体制作/タガネによる加工①～⑥ 14 回 本体制作/タガネによる加工⑦/仕上げ① 15～16 回 仕上げ②③/作品講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1・2 回 コンセプト及びデザイン研究/素材の収集/試作①② 3 回 デザインチェック/プレゼンシートの作成 4～7 回 デザイン画に合わせたパーツ加工①～④ 8～11 回 ロー付けなどのパーツ組み立て①～④ 12～14 回 磨き及び金具付け①②③ 15～16 回 磨き及び金具付け④⑤/ディスプレイ制作①②/作品講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、表現支持体の活用、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習Ⅳ		担当者	小笠 美華・北村 真二 石黒 紀子・近藤 卓浪・北 直人	
授業概要	作品に込めたコンセプトやメッセージを社会に向け強く発信できるようにプレゼンテーション能力を高める。				
目到達	自己の芸術的表現メッセージを他者や社会に向けて十分に発信ができるとともに、コミュニケーションが図れる。				
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 模写作品選定 2～4回 支持体製作 下絵制作①～③ 5～6回 石膏地塗り①② 7回 地塗り調整・削り・磨き 8回 下絵転写 9回 デッサン 10回 箔下とのご塗り 11回 とのご磨き 12～13回 金箔置き①② 14回 金箔磨き、装飾 15回 メディウム作り、下絵 16回 描画 顔、肌にご下色	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 描画 立体感描出 2～5回 描画 肌色①～④ 6回 描画 顔の細部の描出 7回 描画 背景を描く 8回 描画 頭部、毛髪 9回 描画 被り物、衣 10回 描画 装飾品、模様 11～12回 描画 全体のバランス①② 13～14回 描画 黄金背景の装飾①② 15回 描画 完成へ 16回 まとめ、評価		
	日本画	/			
	デザイン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 ガイダンス/Blender 基礎実習① 2～5回 Blender 基礎実習②③④⑤ 6～8回 Unity 基礎実習①②③ 9～12回 3DCG 映像表現①②③④ 13～16回 インタラクティブコンテンツ制作①②③④	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1・2回 インタラクティブコンテンツ制作⑤⑥ 3～6回 3DCG 応用表現の研究①②③④ 7～11回 デジタルとアナログ表現の研究①～⑤ 12～16回 進級課題制作①～⑤		

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 課題1学外発表に向けての自主研究テーマ課題 盃目金(酒器)導入 2回 デザイン研究・デザインチェック 3回 プレゼンシート作成 4～7回 制作①～④ 8回 まとめ・講評 9回 課題2 研究テーマ課題 鉄の加工/導入と機械工具等の使用説明 10回 デザイン研究・デザインチェック 11回 プレゼンシート作成 12～15回 制作①～④ 16回 展示研究・講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 課題3 自主研究テーマ課題1 鍛金(変形絞り)/挿入 2回 デザイン研究・デザインチェック 3回 プレゼンシート作成 4回 制作(金槌作り・当て金作り) 5回 油粘土によるモデリング 6～9回 制作①～④ 10回 経過チェック 11～14回 制作⑤～⑧ 15回 組み立て、着色 16回 展示研究・講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	5つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習 I	担当者	片野 まん・辻野 宗一・関根 祐司 大塩 正・伊藤 藍・岡本 綾子
授業概要	モチーフ(主題)となる対象物に広く関心を向けて、スケッチ、デッサンやデザインなどの表現方法の創作工夫により、客観的観察力に基づく描写能力の向上を図る。		
目到達	目的に沿った表現活動のための自由で幅広い構想力を持ち、作品表現の具体化を図る。		
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2回 風景 油彩 10号~15号 3~5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30号 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 10回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12~14回 人体 二人 組ポーズ 油彩 30号 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2~4回 制作のためのエスキス I、II ①~③ 5回~6回 制作 I 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7回 講評会 8~9回 作品としての制作の学習①② 10~12回 制作 II 油彩 50号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13回 合同講評会 14回 制作 II 作品としての制作の学習 15回 完成 16回 審査
	日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション・小下図 2回 小下図研究発表・草稿 3回 パネル制作・水張り・骨がき 4~9回 大作制作 1 ①~⑥ 10回 合評会 11回 小下図・草稿 12回 小下図研究発表・草稿 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14~15回 大作制作 2 ①② 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後期</p> 1~4回 大作制作 2 ①~④ 5回 合評会 6回 小下図・草稿 7回 小下図研究発表・草稿 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9~15回 大作制作 3 ①~⑦ 16回 合評会
	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 ガイダンス 2~5回 事例研究・分析/ JAGDA 応募作品制作 1~4 6~9回 事例研究・分析/ タイポグラフィ年鑑応募作品制作 10~12回 事例研究・分析/グラフィック表現模索制作 1-1~4 13~15回 事例研究・分析/グラフィック表現模索制作 2-1~4 16回 総括	<p style="text-align: center;">後期</p> 1~3回 事例研究・分析/ グラフィック表現模索制作 3-1~3 4~6回 事例研究・分析/ グラフィック表現模索制作 4-1~3 7~9回 進級制作に応用できるグラフィック表現の模索 1~3 10~12回 進級制作に展開するグラフィック表現の模索 1~3 13~15回 研究成果をふまえたオリジナルな作品制作 1~3 16回 総括

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 概要説明/デザイン研究/素材選び/デザインチェック/三面図の製図① 2回 デザイン研究/素材選び/デザインチェック/三面図の製図② 3～7回 タガネ制作①～⑤ 8～13回 本体制作/タガネによる加工①～⑥ 14回 本体制作/タガネによる加工⑦/仕上げ① 15・16回 仕上げ①②/作品講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1・2回 コンセプト及びデザイン研究/素材の収集/試作①② 3回 デザインチェック/プレゼンシート作成 4～7回 デザイン画に合わせたパーツ加工①～④ 8～11回 ロー付けなどのパーツ組み立て①～④ 12～14回 磨き及び金具付け①～③ 15・16回 磨き及び金具付け/ディスプレイ制作①②/作品講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の構想や達成度及び制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅱ		担当者	小笠 美華・岡部 隆志・ブラッキー中島 清水 篤・酒井 沙織・小西 佳子
授業概要	表現のテーマ設定や可能性を研究して、メディアを通じてイメージの具現化を実習する。			
目到達	表現としてのコミュニケーション手段を理解し、造形センスの練磨による独創的な作品表現ができる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 模写作品選定 2～4回 支持体製作 下絵制作①～③ 5～6回 石膏地塗り①② 7回 地塗り調整・削り・磨き 8回 下絵転写 9回 デッサン 10回 箔下とのご塗り 11回 とのご磨き 12～13回 金箔置き①② 14回 金箔磨き、装飾 15回 メディウム作り、下絵 16回 描画 顔、肌到下色	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 描画 立体感描出 2～5回 描画 肌色①～④ 6回 描画 顔の細部の描出 7回 描画 背景を描く 8回 描画 頭部、毛髪 9回 描画 被り物、衣 10回 描画 装飾品、模様 11～12回 描画 全体のバランス①② 13～14回 描画 黄金背景の装飾①② 15回 描画 完成へ 16回 まとめ、評価	
	日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 作家作品研究①～③ 5～6回 小品のための取材（写生）・テーマ・小下図研究①② 7回 研究発表 8回 小品制作（2点）/パネル制作 9回 草稿 10～15回 小品制作①～⑥ 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～4回 画材研究①～④ 5回 画材研究発表会 6～7回 小下図・草稿①② 8回 草稿・草稿合評 9回 パネル制作・水張り・転写 10回 水干下塗り 11・12回 水干彩色①② 13～15回 岩絵具の彩色①～③ 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 デザイン的思考・プロジェクトテーマ選定①②③ 5回 デザイン的思考・プロジェクトテーマ発表 6～10回 実習「プロジェクト」①～⑤ （プロジェクトの詳細設計） 11～15回 実習「プロジェクト」⑥～⑩ （実務デザイン制作、及び関連プロジェクトの推進） 16回 前期のまとめ後期に向けてのガイダンス	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～6回 実習「プロジェクト」⑪～⑯ （実務デザイン制作、及び関連プロジェクトの推進） 7～11回 実習「プロジェクト」⑰～⑳ （プロジェクト終了後のまとめ～事業報告書作成） 12回 実習「プロジェクト」㉑ （プレゼンテーション） 13～15回 実習「プロジェクト」㉓㉔㉕ 16回 後期のまとめ プロジェクトの振り返り	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9 回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12 回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16 回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2 回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4 回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6 回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10 回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15 回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16 回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15 回 自由制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 オリエンテーション 授業内容説明 課題 1 “イメージ表現” 2・3 回 デザイン案 1・2 4・5 回 素材研究と試作 1・2 6 回 プランニングシート作成 7～14 回 制作 1～8 15 回 展示計画 16 回 講評 まとめ	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 授業内容説明 課題 2 “想定空間の提案” 2・3 回 リサーチ 1・2 4・5 回 プランニングシート作成 1・2 6～15 回 制作 1～10 16 回 設置 講評 まとめ
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の達成度や制作に取り組む姿勢、表現としてのコミュニケーション手段の理解度などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅲ		担当者	西村 涼・広岡 真彩彦・ブラッキー中島 松本 康代・伊藤 藍・濱 久仁子
授業概要	造形表現のためのメディア技術力の練磨と、より高次元な技術の修得を目指して実習する。			
目到達	様々な表現メディアの知識と技能をもち、個性ある創作活動ができる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1 回 制作 1 ドライポイントの技法を説明 *下絵（写真）提出 2 回 下絵制作 テーマ「風景とキャラクター」 3 回 下絵をトレースして描画 4 回 描画 試刷り 5 回 描画 試刷り 本刷り *試刷り提出 6 回 本刷り *本刷り提出 7 回 制作 2 アクアチントの表現 テーマ「夢の中の景色」 8 回 アクアチント説明 版の準備 9 回 下絵制作 10 回 下絵を版に転写 製版 11 回 製版 12～13 回 製版 試刷り *試刷り提出 14 回 製版 試刷り 本刷り 15 回 製版 本刷り 16 回 合評 *本刷り提出	<p style="text-align: center;">後期</p> 1 回 制作 3 自由制作 プラン作成 版の準備 *プラン提出 2 回 下絵制作 *プラン提出 3 回 下絵制作 4 回 下絵制作 *下絵提出 5～7 回 製版 8 回 製版 試刷り 9 回 製版 試刷り *試刷り提出 10～12 回 製版 試刷り 13 回 製版 試刷り *試刷り提出 14～15 回 製版 本刷り 16 回 合評 *本刷り提出	
		日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1 回 オリエンテーション・小下図 2 回 小下図・草稿・小下図研究発表 3 回 パネル制作・水張り・骨がき 4 回 下塗り 5・6 回 水干彩色 1.2 7～9 回 岩絵具彩色 1～3 10 回 合評会 11 回 小下図・草稿 12 回 小下図・草稿・小下図研究発表 13 回 パネル制作・水張り・骨がき 14 回 下塗り 15 回 水干彩色 16 回 合評会	<p style="text-align: center;">後期</p> 1 回 水干彩色 2～4 回 岩絵具彩色 1～3 5 回 合評会 6 回 小下図・草稿 7 回 小下図・草稿・小下図研究発表 8 回 パネル制作・水張り・骨がき 9 回 下塗り 10・11 回 水干彩色 1.2 12～15 回 岩絵具彩色 1～4 16 回 合評会
授業計画	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1 回 オリエンテーション 2～4 回 デザイン的思考・プロジェクトテーマ 選定①②③ 5 回 デザイン的思考・プロジェクトテーマ 発表 6～10 回 実習「プロジェクト」①～⑤ （プロジェクトの詳細設計） 11～15 回 実習「プロジェクト」⑥～⑩ （実務デザイン制作、及び関連プロジェクトの推進） 16 回 前期のまとめ後期に向けてのガイダンス	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～6 回 実習「プロジェクト」⑪～⑯ （実務デザイン制作、及び関連プロジェクトの推進） 7～11 回 実習「プロジェクト」⑰～⑳ （プロジェクト終了後のまとめ～事業報告書作成） 12 回 実習「プロジェクト」㉑ （プレゼンテーション） 13～15 回 実習「プロジェクト」㉒㉓㉔ 16 回 後期のまとめ プロジェクトの振り返り	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主制作Ⅰ 各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9 回 自主制作Ⅱ 抽象-オブジェ-による制作①～④ 10～12 回 自主制作Ⅲ 用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16 回 自主制作Ⅳ 基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2 回 表現技法Ⅰ 素地による表現①② 3～4 回 表現技法Ⅱ 釉薬による表現①② 5～6 回 表現技法Ⅲ 焼成による表現①② 7～10 回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15 回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16 回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ ①～④ 11～15 回 自由制作Ⅲ ①～④ 16 回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 授業内容の説明と課題① 工芸技法の表現/導入 2 回 素材 技法の実験 3 回 テーマ コンセプト考察 4 回 発案とデザイン画の制作 5～8 回 実技制作①～④ 9 回 課題②-1 学外展示用印刷資料の制作について/導入 10 回 グループ展の企画内容、会場構成、開催趣旨などを共有する 11 回 DM 制作・ポスター制作 パンフレット制作の担当と出品作家の決定 12～15 回 各自の担当資料の制作①～④ 16 回 まとめ 講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 課題②-2 学外展示・学祭展示に関する資料の制作について/導入 2・3 回 課題①の紹介資料とキャプションの制作①② 4・5 回 課題②-3 学祭展示用プレゼンテーション資料の作成①② 6 回 課題③ 工芸技法の表現 2/導入 テーマ・コンセプトの考察 7 回 素材 技法の実験 8～11 回 実技制作①～④ 12・13 回 プレゼンテーション資料の制作②・発表 14 回 課題④ 進級制作のプレゼンテーション資料の制作/導入 15 回 修了制作プレゼンテーション資料の制作② 16 回 まとめ 講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の理解度、表現力、関心度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅳ	担当者	小笠 美華・石股 昭・ブラザトン ダンカン 松本 康代・門田 綾音・藤本 奈穂子
授業概要	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。		
目到達	様々な表現メディアの体験を通して、多様な表現方法による創作活動ができる。		
授 業 計 画	洋 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション 2回 風景 油彩 10号~15号 3~5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30号 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 10回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12~14回 人体 二人 組ポーズ 油彩 30号 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2~4回 制作のためのエスキスⅠ、Ⅱ①~③ 5回~6回 制作Ⅰ 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7回 講評会 8~9回 作品としての制作の学習①② 10~12回 制作Ⅱ 油彩 50号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ 作品としての制作の学習 15回 完成 16回 審査
	日 本 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション・小下図 2回 小下図・草稿・小下図研究発表 3回 パネル制作・水張り・骨がき 4~9回 大作制作Ⅰ ①~⑥ 10回 合評会 11回 小下図・草稿 12回 小下図・草稿・小下図研究発表 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14回 下塗り 15回 水干彩色 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 水干彩色 2~4回 岩絵具彩色 1~3 5回 合評会 6回 小下図・草稿 7回 小下図・草稿・小下図研究発表 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9回 下塗り 10・11回 水干彩色 1.2 12~15回 岩絵具彩色 1~4 16回 合評会
	デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 ガイダンス・オリエンテーション 2~3回 活動を検討：アイデアをリサーチ 1.2 4~5回 活動を検討：提案・相談 1.2 6回 研究プロジェクトⅠ 7回 基本リサーチ 8~10回 準備 1~3 11~13回 必要な作業・制作 1~3 14回 現時点確認 15回 プレゼンテーション 16回 まとめ	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 クリエイティブ研究プロジェクトⅡ 2回 基本リサーチ 3~4回 準備 1.2 5~10回 必要な作業・制作 1~6 11・12回 活動後まとめ・アーカイブ 1・2 13回 現時点確認 14回 プレゼンテーション準備 15回 プレゼンテーション 16回 授業まとめ

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェ-による制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 七宝焼き技法を用いた装身具 概要説明 デザイン研究 デザインチェック 2回 テストピースの制作 3回 素地作り 4～10回 七宝制作①～⑦ 11～13回 金属枠制作①②③ 14・15回 留め付け及び仕上げ①② 16回 展示環境の制作	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1・2回 コンセプト及びデザイン研究/素材の収集/試作①② 3回 デザインチェック/プレゼンシートの作成 4～7回 デザイン画に合わせたパーツ加工①～④ 8～11回 ロー付けなどのパーツ組み立て①～④ 12～14回 磨き及び金具付け①②③ 15回 ディスプレイ制作 16回 作品講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	それぞれの表現メディア技術の到達度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習V		担当者	平田 泰延・石股 昭・西岡 幸二 惣田 司・門田 綾音・岡本 綾子
授業概要	造形作品と社会の関わりを理解して、アクションの必然性と重要性を学習し演習する。			
目到達	芸術と社会の相関性を理解し、より高次元な表現能力を修得し、発信できる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2回 風景 油彩 10号 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50号 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 10回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ 油彩 50号 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2～4回 制作のためのエスキスⅠ、Ⅱ①～③ 5回～6回 制作Ⅰ 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7回 講評会 8～9回 作品としての制作の学習①② 10～12回 制作Ⅱ 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ 作品としての制作の学習 15回 完成 16回 審査	
	日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション・小下図 2回 小下図・草稿 3回 パネル制作・水張り・骨がき 4回 下塗り 5・6回 水干彩色 1.2 7～9回 岩絵具彩色 1～3 10回 合評会 11回 小下図・草稿 12回 草稿・草稿合評 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14回 下塗り 15回 水干彩色 1 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 水干彩色 2 2～4回 岩絵具彩色 1～3 5回 合評会 6回 小下図・草稿 7回 小下図・草稿・草稿合評 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9回 下塗り 10・11回 水干彩色 1.2 12～15回 岩絵具彩色 1～4 学外講師特別講義 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 映像制作基礎 2～4回 3Dモデリング①②③ 5・6回 映像コンテ作成①② 7・8回 撮影準備①② 9～11回 撮影①②③ 12・13回 編集①② 14・15回 録音ミキシング①② 16回 作品講評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 絵本の構成 2・3回 絵本のストーリー制作①② 4・5回 絵本のキャラクター制作①② 6～8回 編集①②③ 9・10回 音楽、効果音①② 11回 作品講評 12～15回 制作指導①②③④ 16回 まとめ	

	<p style="text-align: center;">前 期</p> <p>1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作</p>	<p style="text-align: center;">後 期</p> <p>1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 13回 エスキスの制作 14回 中間発表会 15回 実制作 16回 社会に発表する制作研究・合評会</p>
授 業 計 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> <p>1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作 (作品点数は美術科2回次に準ずるが、 専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評</p>	<p style="text-align: center;">後 期</p> <p>1回 個々の年間計画表に基づいて 自由制作(作品点数は美術科2回次に準じ るが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評</p>
	<p style="text-align: center;">前 期</p> <p>1～3回 ギミックを取り入れたジュエリー 概要説明/デザイン、構造研究/素材選 び/デザインチェック/製図①②③ 4～6回 ギミックの研究、試作①②③ 7～12回 本体制作/ギミックのパーツ加工①～⑥ 13・14回 本体制作/ギミックのパーツ加工①②/ ギミックの機能確認①②/仕上げ①② 15回 仕上げ③ 16回 仕上げ④/作品講評</p>	<p style="text-align: center;">後 期</p> <p>1・2回 自主研究テーマによる課題 コンセプト及びデザイン研究/素材の収集 /試作①② 3回 デザインチェック/プレゼンシートの作成 4～7回 デザイン画に合わせたパーツ加工①～④ 8～11回 ロー付けなどのパーツ組み立て①②③④ 12～14回 磨き及び金具付け①②③ 15・16回 磨き及び金具付け④⑤/ディスプレイ制作 ①②/作品講評</p>
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。	
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価するとともに、学外展での発信や授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。	
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。	

科目名	実技演習VI		担当者	小笠 美華・福井 悠・ブラザトン ダンカン 大塩 正・近藤 卓浪・岡本 綾子
授業概要	制作した作品を通して社会とコミュニケーションがとれるように、様々な方法と手段を研究する。			
目到達	作品を体系化して、現代社会の多様な領域に向けて、自己の能力を明確に、より強く発信できる。			
授 業 計 画	洋画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション 2回 風景 油彩 10号 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50号 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 10回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ 油彩 50号 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2～4回 制作のためのエスキスⅠ、Ⅱ①～③ 5回～6回 制作Ⅰ 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7回 講評会 8～9回 作品としての制作の学習①② 10～12回 制作Ⅱ 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ 作品としての制作の学習 15回 完成 16回 審査	
	日本画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション・小下図 2回 小下図・草稿 3回 パネル制作・水張り・骨がき 4回 下塗り 5・6回 水干彩色 1.2 7～9回 岩絵具彩色 1～3 10回 合評会 11回 小下図・草稿 12回 草稿・草稿合評 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14回 下塗り 15回 水干彩色 1 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 水干彩色 2 2～4回 岩絵具彩色 1～3 5回 合評会 6回 小下図・草稿 7回 小下図・草稿・草稿合評 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9回 下塗り 10・11回 水干彩色 1.2 12～15回 岩絵具彩色 1～4 学外講師特別講義 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 ガイダンス・オリエンテーション 2～3回 活動を検討：アイデアをリサーチ 1.2 4～5回 活動を検討：提案・相談 1.2 6回 研究プロジェクト 1 7回 基本リサーチ 8～10回 準備 1～3 11～13回 必要な作業・制作 1～3 14回 現時点確認 15回 プレゼンテーション 16回 まとめ	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 クリエイティブ研究プロジェクト 2 2回 基本リサーチ 3～4回 準備 1.2 5～10回 必要な作業・制作 1～6 11～12回 活動後まとめ・アーカイブ 1.2 13回 現時点確認 14回 プレゼンテーション準備 15回 プレゼンテーション 16回 授業まとめ	

	陶芸	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13回 中間発表会 14回 実制作 15回 社会に発表する制作研究・合評会
授 業 計 画	染織	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作 (作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、 専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて 自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準じ るが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	クラフト (工芸) デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～3回 ギミックを取り入れたジュエリー 概要説明/デザイン、構造研究/素材 選び/デザインチェック/製図①②③ 4～6回 ギミックの研究、試作①②③ 7～12回 本体制作/ギミックのパーツ加工①～⑥ 13・14回 本体制作/ギミックのパーツ加工①②/ ギミックの機能確認①②/仕上げ①② 15回 仕上げ③ 16回 仕上げ④/作品講評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1・2回 自主研究テーマによる課題 コンセプト及びデザイン研究/素材の収 集/試作①② 3回 デザインチェック/プレゼンシートの作成 4～7回 デザイン画に合わせたパーツ加工①～④ 8～11回 ロー付けなどのパーツ組み立て①②③④ 12～14回 磨き及び金具付け①②③ 15・16回 磨き及び金具付け④⑤/ディスプレイ制作 ①②/作品講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、周辺社会への働きかけや授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習Ⅶ		担当者	廣田 美乃・岡部 隆志・西岡 幸二 清水 篤・伊藤 藍・藤本 奈穂子
授業概要	自己の表現について到達目標と授業計画に基づいて、高い完成度で造形表現できるようにする。			
目到達	各系列において修得した教養・専門知識と練磨した芸術的感性をもとに、現代社会で才能を十分に発揮し、活躍できる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 制作①エスキース①～③ 5～7回 制作①油彩 50号以上1点以上①～③ 8回 講評会 9～14回 制作① ①～⑥ 15回 合同講評会 16回 制作①完成へ	<p style="text-align: center;">後期</p> 1・2回 制作のためのエスキースⅠ・Ⅱ①② 3回 プランチェック 4回 制作のためのエスキースⅠ・Ⅱ 5回～6回 制作Ⅰ油彩100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～9回 制作Ⅰ①② 10～12回 制作Ⅱ油彩100号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ 15回 制作Ⅰ、Ⅱ 完成 16回 審査	
	日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション・小下図 2回 小下図・草稿 3回 パネル制作・水張り・骨がき 4回 下塗り 5・6回 水干彩色1.2 7～9回 岩絵具彩色1～3 10回 合評会 11回 小下図・草稿 12回 草稿・草稿合評 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14回 下塗り 15回 水干彩色1 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 水干彩色2 2～4回 岩絵具彩色1～3 5回 合評会 6回 小下図・草稿 7回 小下図・草稿・草稿合評 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9回 下塗り 10・11回 水干彩色1.2 12～15回 岩絵具彩色1～4 学外講師特別講義 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 3Dモデリングプラン 2～4回 3Dモデリング①～③ 5回 映像制作基礎 6回 映像プラン 7・8回 映像コンテ作成①② 9回 撮影準備 10～12回 撮影①～③ 13・14回 編集①② 15回 録音ミキシング 16回 作品講評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 絵本の構成 2・3回 絵本のストーリー制作①② 4・5回 絵本のキャラクター制作①② 6～8回 編集①②③ 9・10回 音楽、効果音①② 11回 作品講評 12～15回 制作指導①②③④ 16回 まとめ	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13回 中間発表会 14回 実制作 15回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作 (作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、 専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて 自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準じ るが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト (工 芸) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 制作テーマの研究 2回 コンセプト立案／構想の展開 3・4回 デザイン研究①② 5回 形状検討 素材研究 6・7回 実験と試作①② 8～14回 制作①～⑦ 15回 展示プランニング及び実施 16回 講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 コンセプト立案／構想の展開 2・3回 デザイン研究①② 4回 形状検討 素材研究 5・6回 実験と試作①② 7～14回 制作①～⑧ 15回 展示プランニング及び実施 16回 講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅴ		担当者	片野 まん・辻野 宗一・関根 祐司 大塩 正・酒井 沙織・岡本 綾子
授業概要	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。			
目到達	実技と理論の研究をとおして、対象物に対する客観的分析能力をもち、新たな創造の力を身に付けている。			
授 業 計 画	洋 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 オリエンテーション 2 回 風景 油彩 10 号 3～5 回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50 号 6 回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50 号 8 回 講評会 9 回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50 号 10 回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11 回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14 回 人体 二人 組ポーズ 油彩 50 号 15 回 合同講評会 16 回 自画像 10 号	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 制作につながる作品 30 号程度 2～4 回 制作のためのエスキスⅠ、Ⅱ①～③ 5 回～6 回 制作Ⅰ 油彩 100 号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7 回 講評会 8～9 回 作品としての制作の学習①② 10～12 回 制作Ⅱ 油彩 100 号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13 回 合同講評会 14 回 制作Ⅱ 作品としての制作の学習 15 回 完成 16 回 審査	
	日 本 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 オリエンテーション・小下図 2 回 小下図・草稿・小下図研究発表 3 回 パネル制作・水張り・骨がき 4 回 下塗り 5・6 回 水干彩色 1.2 7～9 回 岩絵具彩色 1～3 10 回 合評会 11 回 小下図・草稿 12 回 小下図研究発表・草稿 13 回 パネル制作・水張り・骨がき 14 回 下塗り 15 回 水干彩色 16 回 合評会	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1 回 水干彩色 2～4 回 岩絵具彩色 1～3 5 回 合評会 6 回 小下図・草稿 7 回 小下図・草稿・小下図研究発表 8 回 パネル制作・水張り・骨がき 9 回 下塗り 10・11 回 水干彩色 1.2 12～15 回 岩絵具彩色 1～4 16 回 合評会	
	デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1 回 ガイダンス 2～5 回 事例研究・分析／ JAGDA 応募作品制作 1～4 6～9 回 事例研究・分析／ タイポグラフィ年鑑応募作品制作 1～4 10～12 回 事例研究・分析／ グラフィック表現模索制作 1-1～4 13～15 回 事例研究・分析／ グラフィック表現模索制作 2-1～3 16 回 総括	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～3 回 事例研究・分析／ グラフィック表現模索制作 3-1～3 4～6 回 事例研究・分析／ グラフィック表現模索制作 4-1～3 7～9 回 修了制作に応用できるグラフィック表現の 模索 1～3 10～12 回 修了制作に展開するグラフィック表現の模 索 1～3 13～15 回 研究成果をふまえたオリジナルな作品制作 1～3 16 回 総括	

	陶芸	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 13回 エスキスの制作 14回 中間発表会 15回 実制作 16回 社会に発表する制作研究・合評会
授業計画	染織	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作 (作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、 専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて 自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準じ るが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	クラフト(工芸)デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1・2回 粒金細工を施したジュエリー 概要説明/デザイン研究/デザイン チェック/製図①② 3～5回 粒金研究/接合ペースト①②③/粒金 制作① 6・7回 粒金制作②③ 8～11回 本体制作①～④ 12～14回 本体制作⑤⑥⑦/接合①②③ 15・16回 仕上げ①②/作品講評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1・2回 自主研究テーマによる課題 コンセプト及びデザイン研究/素材の収集 /試作①② 3回 デザインチェック/プレゼンシートの作成 4～7回 デザイン画に合わせたパーツ加工①～④ 8～11回 ロー付けなどのパーツ組み立て①～④ 12～14回 磨き及び金具付け①②③ 15・16回 磨き及び金具付け④⑤/ディスプレイ制作 ①②/作品講評
教科書参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の方法	表現の構想力、作品の達成度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習VI		担当者	小笠 美華・辻野 宗一・ブラッキー中島 大塩 正・伊藤 藍・藤本 奈穂子
授業概要	美術工芸作品に関心を向け研究することにより、自身が目指すべき個性の指針が発見できるようにする。			
目到達	様々な表現領域についての見識をもち、自己の作品表現のための表現コンセプトを確立して作品制作ができる。			
授 業 計 画	洋 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 模写作品選定 2～4回 支持体製作 下絵制作①～③ 5～6回 石膏地塗り①② 7回 地塗り調整・削り・磨き 8回 下絵転写 9回 デッサン 10回 箔下とのご塗り 11回 とのご磨き 12～13回 金箔置き①② 14回 金箔磨き、装飾 15回 メディウム作り、下絵 16回 描画 顔、肌到下色	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 描画 立体感描出 2～5回 描画 肌色①～④ 6回 描画 顔の細部の描出 7回 描画 背景を描く 8回 描画 頭部、毛髪 9回 描画 被り物、衣 10回 描画 装飾品、模様 11～12回 描画 全体のバランス①② 13～14回 描画 黄金背景の装飾①② 15回 描画 完成へ 16回 まとめ、評価	
	日 本 画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 作家作品研究 1～3 5・6回 小品のための取材(写生)・テーマ小下図 研究 1.2 7回 研究発表 8回 小品制作(2点) / パネル制作 9回 草稿 10～15回 制作 1～6 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～4回 画材研究 1～4 5回 画材研究合評会 6～8回 小下図・草稿・草稿合評 9回 パネル制作・水張り・転写 10回 水干下塗り 11・12回 水干彩色 1.2 13～15回 岩絵具彩色 1～3 16回 合評会	
	デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 インタビューからデザインへ①～③ 5回 合評・プレゼンテーション 6～9回 デザイン的思考・プロジェクト テーマ選定①～④ 10回 テーマ決定 11～15回 実習「プロジェクト」①～⑤ 16回 前期のまとめ(中間発表) 後期に向けてのガイダンス	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～15回 実習「プロジェクト」①～⑤ 16回 合評・プレゼンテーション	

	陶芸	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13回 中間発表会 14回 実制作 15回 社会に発表する制作研究・合評会
授 業 計 画	染織	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作（作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談） 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作（作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、専門分野により個別に相談） 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	クラフト（工芸）デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 概要説明 2回 コンセプト立案 デザイン研究 3～5回 技法研究①②③ 6・7回 試作①② 8～12回 制作①～⑤ 13～15回 組み立て及び仕上げ①②③ 16回 展示環境の制作	<p style="text-align: center;">後期</p> 1・2回 コンセプト及びデザイン研究／素材の収集／試作①② 3回 デザインチェック／プレゼンシートの作成 4～7回 デザインに合わせたパーツ加工①～④ 8～11回 ロー付けなどのパーツ組み立て①～④ 12～14回 磨き及び金具付け①②③ 15回 ディスプレイ制作 16回 作品講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	選択した技法の到達度や作品の達成度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅶ		担当者	廣田 美乃・吉岡 佐知・村松 佳優 松本 康代・酒井 沙織・小西 佳子
授業概要	造形表現の領域におけるの自己の確立と個性の表出が、いかに社会と関わるのかを追求する。			
目到達	表現者として主体的に社会との関係を認識し、現代社会における問題意識を踏まえて個性的な観点から美的価値の創造ができる。			
授 業 計 画	洋画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション 2回 風景 油彩 10号 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 50号 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 10回 人体 男性 動作ポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ 油彩 50号 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2～4回 制作のためのエスキスⅠ、Ⅱ①～③ 5回～6回 制作Ⅰ 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 7回 講評会 8～9回 作品としての制作の学習①② 10～12回 制作Ⅱ 油彩 100号以上一点以上 自分らしい表現への展開 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ 作品としての制作の学習 15回 完成 16回 審査	
	日本画	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 オリエンテーション・小下図 2回 小下図・草稿 3回 パネル制作・水張り・骨がき 4回 下塗り 5・6回 水干彩色 1.2 7～9回 岩絵具彩色 1～3 10回 合評会 11回 小下図・草稿 12回 草稿・草稿合評 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14回 下塗り 15回 水干彩色 1 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 水干彩色 2 2～4回 岩絵具彩色 1～3 5回 合評会 6回 小下図・草稿 7回 小下図・草稿・草稿合評 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9回 下塗り 10・11回 水干彩色 1.2 12～15回 岩絵具彩色 1～4 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 ガイダンス 2～4回 写真・撮影基礎①②③ 5～8回 撮影実習 1 (モチーフ撮影) ①②③④ 9～15回 撮影実習 2 (マクロ・ミクロ) ①～⑦ 16回 前期まとめ	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1・2回 撮影実習 3 (作品講評) ①② 3～5回 撮影実習 4 (モチーフ撮影) ①②③ 6～14回 撮影実習 5 (テーマ設定からの作品制作) ①～⑨ 15回 発表 16回 後期まとめ	

	陶芸	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13回 中間発表会 14回 実制作 15回 社会に発表する制作研究・合評会
授 業 計 画	染織	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作 (作品点数は美術科 2 回次に準ずるが、 専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて 自由制作(作品点数は美術科 2 回次に準じ るが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	クラフト (工芸) デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 授業内容説明 課題導入 “音” モビール作成 2回 “音” についてのリサーチ 3回 “音” の想定描写 視覚的にデザイン化 する 4回 モビールの構造理解 5・6回 試作 素材 講評 7回 プランニングシート作成 8・9回 形状、素材を検討 1・2 10～13回 制作 1～4 経過チェック 14回 設置 調整 15回 制作 5 完成 16回 講評 まとめ	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 授業内容説明 課題導入 “環境と芸術” 2回 国内外の事例・作品を考察する 3・4回 作品制作のためのリサーチ 経過チェック 1.2 5回 プランニングシート作成 6・7回 アイデア検討 1.2 8・9回 素材検討 1.2 10～15回 制作 1～6 16 講評 まとめ
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の達成度や社会への発表を踏まえた制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅷ		担当者	西村 涼・ブラッキー中島・松本 康代 門田 綾音・濱 久仁子		
授業概要	自己の到達目標を超えた次元での完成を体感することで得られる達成感を目指して実習する。					
目到達	新たな技法による表現方法の研究を行い、社会生活の中で様々な創作活動ができる。					
授業計画	洋画	前期		後期		
		1回	制作1 ドライポイントの技法を説明 *下絵(写真)	1回	制作3 自由制作 下絵制作*プラン提出	
		2回	下絵提出(印刷) テーマ「風景とキャラクター」	2回	下絵制作	*プラン提出
授業計画	日本画					
授業計画	デザイン	前期		後期		
		1回	オリエンテーション	1~5回	実習「プロジェクト」⑪~⑮ (実務デザイン制作、及び関連プロジェクトの推進)	
		2~4回	デザインの思考・プロジェクトテーマ 選定①②③	6回	実習「プロジェクト」⑯ (プロジェクト本番予定)	

	陶芸	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13回 中間発表会 14回 実制作 15回 社会に発表する制作研究・合評会
授 業 計 画	染織	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15回 自由制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	クラフト(工芸)デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 授業内容説明・課題①ワークショップの企画を提案する/導入 2回 テーマ、コンセプト考察/ワークショップ体験の準備 3～5回 ワークショップ体験・ディスカッション①～③ 6～8回 プレゼンテーション資料の制作①～③ 9回 課題②-1 学外展示用印刷資料の制作について/導入 10回 グループ展の企画内容、会場構成、開催趣旨などを共有する 11回 DM制作・ポスター制作・パンフレット制作の担当・出品作家決定 12～15回 各自担当資料制作①～④ 16回 まとめ・講評	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 課題②-2 学外展示・学祭展示に関する資料の制作について/導入 2～3回 紹介資料とキャプションの制作①② 4～5回 課題②-3 学祭展示用プレゼンテーション資料の制作①② 6回 課題③工芸技法の表現3/導入 7・8回 サイアタイプ体験①②とディスカッション①② 9回 テーマ コンセプトの考案 10～12回 サイアタイプの作品制作①～③ 13回 課題④修了制作のプレゼンテーション資料の制作/導入 14～15回 プレゼンテーション資料の制作①② 16回 まとめ・講評
教科書 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の達成度や更に上のレベルへの向上心などの制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	5つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	進級制作（洋画）	担当者	小 笠 美 華
授 業 概 要	自身で主題を選択し研究計画書を作成する。それに則って制作に取り組む。 自身の作品意図を絵画化する過程で、内容を練る力と技術を高める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が選択した主題を絵画表現へとつなげる試行が出来る。 ・油彩制作において表現したいものを表す工夫が出来る。 ・自身の作品について説明できる。 		
授 業 計 画	後 期50号以上1枚以上、100号以上1枚以上 基本として油彩表現 1 制作につながる作品 30号程度 2 主題の選択、構想を練る 3 制作のためのエスキースⅠ 4 制作のためのエスキースⅡ 5 制作Ⅰ.1 油彩100号以上一点以上 6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習① 9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習② 10 制作Ⅰ.5 完成 11 制作Ⅱ.1 油彩50号以上一点以上 12 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開 13 合同講評会 14 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習 15 制作Ⅱ.4 完成 16 審査		
教科書 参考書			
評価の 方法	制作に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。		
備考			

科目名	進級制作（日本画）	担当者	石 股 昭
授 業 概 要	植物、鳥獣類、風景及び人物等の写生を通して、日本画の伝統的な表現技法を学びつつ、各人が個性豊かな作品を完成させる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作テーマに応じた表現方法を選択し作品を完成させる。 ・自らの作品について客観的に理解し述べることができる。 		
授 業 計 画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作テーマの研究 （100号～150号から選択） 2 写生・構想等の展開 1 3 写生・構想等の展開 2 4 写生・構想等の展開 3 5 小下図の研究・相談会 6 草稿の仕上げ 7 パネル作り 8 制作 1 9 制作 2 10 制作 3 11 制作 4・中間合評 12 制作 5 13 制作 6 14 制作 7 15 制作 8 16 最終合評 		
教科書 参考書			
評価の 方法	作品に対する取り組み及び達成度で評価する。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、個々のテーマの表現を客観的に見つめる力と作品にまとめ上げる力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	進級制作（立体造形）	担当者	今 西 賢
授業概要	専攻科1年間の学習成果として、立体造形表現分野に関する、知識と表現技法のまとめとして自由な構想による作品表現を行う。立体世界と空間認識に対する基本的知識と理解を元に、3次元世界での自由な作品表現を行う。		
到達目標	多様な立体造形表現方法について説明することができる。 発想したコンセプトを元的確な表現方法を選択して立体造形をすることができる。 第三者に対して自分の作品の概要、制作意図等を言語化し、明確に説明することができる。		
授業計画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 進級制作計画書作成 2 ・発想、着想からの構想展開 3 ・構想案アイデアスケッチ展開 4 ・素材、表現技法の選択展開 5 作品題名 6 作品テーマ 7 作品コンセプト 8 資料調査展開 9 表現方法、技術 10 作品展示構想 11 縮尺モデル 12 専攻科指導教員のもとで、十分に綿密な計画の上で制作進行する。 13 中間プレゼンテーション 14 改善点の指導 15 まとめ 16 審査、講評 		
教科書参考書	なし。課題に応じてこちらで資料を用意します。		
評価の方法	作品テーマ設定と表現方法の整合性、制作プロセス及び作品完成度の総合評価。		
実務経験	セットデザイン、小道具の制作およびイラストの描画等テレビ業界での実務経験を活かしビジュアルデザインの実践的な考え方や制作への取り組み方を指導します。		
備考			

科目名	修了制作（洋画）	担当者	小 笠 美 華
授 業 概 要	自身で主題を選択し研究計画書を作成、修了制作作品に取り組む。学んできたことを活用しつつ、作家として作品制作を継続していけるよう新たな表現に挑戦し、充実した作品の制作を目指す。 修了制作作品展においては作品を効果的に展示することについても学び、卒業後の活動につなげる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主題の選択に独自性があり、表現したいものを表す工夫が出来る。 ・造形要素を活用して充実した作品になっている。 ・自身の作品を見せる工夫が出来、作品について説明できる。 		
授 業 計 画 画	後 期大きき 100 号以上 2 点以上 基本として油彩表現 1 制作につながる作品 30 号程度 2 主題の選択、構想を練る 3 制作のためのエスキース I 4 制作のためのエスキース II 5 制作 I.1 油彩 100 号以上一点以上 6 制作 I.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作 I.3 作品としての制作の学習① 9 制作 I.4 作品としての制作の学習② 10 制作 II.1 油彩 100 号以上一点以上 11 制作 II.2 自分らしい表現への展開 12 制作 II.3 作品としての制作の学習① 13 合同講評会 14 制作 II.4 作品としての制作の学習② 15 制作 I、II 完成 16 審査		
教科書 参考書			
評価の 方法	制作に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。		
備考			

科目名	修了制作（日本画）	担当者	石 股 昭
授 業 概 要	四年間の集大成として、造形上のあらゆる技法や材料を効果的に表現に生かし、単なる思い付きや表面的な表現で終ることなく、自由な発想に基づく新しい造形表現を目指して、合評会等も行いながら、将来作家として活躍できるように制作する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な発想で新しい造形表現を目指した構想ができる。 ・様々な技法や材料を効果的に生かした表現ができる。 ・作品を完成すると共に修了制作展に展示し、自らの作品について述べることができる。 		
授 業 計 画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制作テーマの研究 （100 号～150 号から選択） 2 写生・構想等の展開 1 3 写生・構想等の展開 2 4 写生・構想等の展開 3 5 小下図の研究・相談会 6 草稿の仕上げ 7 パネル作り 8 制作 1 9 制作 2 10 制作 3 11 制作 4・中間合評 12 制作 5 13 制作 6 14 制作 7 15 制作 8 16 最終合評 		
教科書 参考書			
評価の 方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、個々のテーマの表現を客観的に見つめる力と作品にまとめ上げる力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	修了制作（立体造形）	担当者	今 西 賢
授業概要	専攻科 2 年間の学習成果として、立体造形表現分野に関する、知識と表現技法のまとめとして自由な構想による作品表現を行う。立体世界と空間認識に対する基本的知識と理解を元に、3 次元世界での自由な作品表現を行う。		
到達目標	立体造形表現分野に対する幅広い視点を持って表現活動ができる。 発想したコンセプトを元的確な表現方法を選択して立体造形をすることができる。 第三者に対して自分の作品の概要、制作意図等を言語化し、明確に説明することができる。		
授業計画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 修了制作計画書作成 2 ・作品構想の展開 3 ・素材、表現技法等の選択展開 4 ・構想案、アイデアスケッチ展開 5 作品題名 6 作品テーマ 7 作品コンセプト 8 資料調査展開 9 表現方法、技術 10 作品展示構想 11 縮尺モデル 12 中間プレゼンテーション 13 専攻科指導教員のもとで、十分に綿密な計画の上で制作進行する。 14 修了制作プレゼンテーション 15 改善点の指導 16 審査、講評 		
教科書参考書	なし。課題に応じてこちらで資料を用意します。		
評価の方法	作品テーマ設定と表現方法の整合性、制作プロセス及び作品完成度の総合評価。		
実務経験	セットデザイン、小道具の制作およびイラストの描画等テレビ業界での実務経験を活かしビジュアルデザインの実践的な考え方や制作への取り組み方を指導します。		
備考			